

医療介護総合確保法に基づく

平成 30 年度 東京都計画

平成 31 年 2 月

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | |
|--------------------|--|--------------------------------------|------|------|--------|
| 事業の区分 | I. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業 | | | | |
| 整理番号 | 1 | | | | |
| 事業名 | 地域医療構想推進事業 | 【総事業費 (計画期間の総額)】 11,269,112 千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 187 頁 第4章 課題 医療連携の強化 196 頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 198 頁 第5章1 地域医療構想の推進に向けた取組等 211 頁 第5章2 救急医療の取組 | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | |
| 事業の期間 | (1) 平成30年4月1日~平成32年3月31日 (2)、(3) 平成30年3月31日~平成31年3月31日 | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療構想に関して不足する病床機能を確認するため、不足する病床の開設を推進する必要がある。 また、救急搬送件数が増加する中、救急車の適正利用を促進しつつ、急性期を脱した患者を円滑に回復期の医療機関に転院させ、病床の機能分化を図る必要がある。 アウトカム指標： 不足病床数に対する平成30年度の整備目標数 回復期機能 889 床 | | | | |
| 事業の内容 | (1) 地域医療構想に基づく病床の整備を行うために必要な改修、改築及び新築等に要する工事又は工事請負費及び設備整備に対する補助 (2) 地域医療構想に関して、不足する病床の開設を行う医療機関に対し、開設前6か月の準備に係る経費及び開設後1年間の人件費の一部を補助する。 (3) 急性期医療機関から回復期医療機関等へ、メディカルコントロールの必要がある患者を転院させる際、医療機関が所有する救急車及び患者等搬送事業者を使用した場合、医療従事者の同乗等に係る経費の一部を補助する。 | | | | |
| アウトプット指標 | (1) 補助病院数：15 病院 (2) 補助病院数：16 病院 (3) 医療機関が所有する救急車等による転院搬送に対する補助実績件数：7,812 件 | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 地域医療構想に関して不足する回復期機能病床の開設が促進されるとともに、急性期から回復期への患者の流れが円滑になり病床の機能分化・連携が図られる。 | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金 | 総事業費 | (千円) | 基金充当 | 公 (千円) |

(様式4：東京都)

| | | | | | | |
|--------|---------------------------------------|-------------------|-------------------|-----------------------------------|---|---------------------------------------|
| | 額 | (A + B + C) | 11,269,112 | 額 (国費) における 公民の別 (注1) | | 496 |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 3,224,630 | | 民 | (千円) 3,224,133 |
| | | 都道府県 (B) | (千円) 1,612,314 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 39,399 |
| | | 計(A + B) | (千円) 4,836,944 | | | |
| | その他(C) | (千円) 6,432,168 | | | | |
| 備考(注3) | 平成30年度 4,771,753千円 平成31年度 65,191千円 | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | |
|--------------------|--|----------------------------------|-----------------|---------------|--------|
| 事業の区分 | 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業 | | | | |
| 整理番号 | 2 | | | | |
| 事業名 | 東京都地域医療連携ICTシステム整備支援事業 | 【総事業費 (計画期間の総額)】 224,800千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 187頁 第4章 課題 医療連携の強化 | | | | |
| | 200頁 第5章2 課題 医療情報共有化の推進 | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都、医療機関 | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>(1) 患者の状況に応じた適切な医療を提供するため、医療機関間の連携を強化する必要がある。</p> <p>(2) 急性期における医療機関相互の円滑な連携を推進するため、ICTを活用した医療情報共有ツールを導入する医療機関を支援する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <p>(1) ICTシステム整備支援事業実施医療機関 11医療機関(H28末) 19医療機関(H30末)</p> <p>(2) 脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施件数828件(H27年度) 増やす</p> | | | | |
| 事業の内容 | <p>(1) 医療機関が既に整備している電子カルテシステムやオーダリングシステムなどを利用し、医療機関同士が円滑に情報共有を行うためのICTを活用した医療連携ネットワーク構築を支援する。</p> <p>(2) ICTを活用した情報共有ツール(汎用画像診断装置用プログラム)を導入する医療機関に対し、導入に係る初度経費を補助する。</p> | | | | |
| アウトプット指標 | (1) 補助施設 8医療機関 (2) 補助施設 24施設 | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | <p>(1) 地域医療連携が進み、都民がどの医療機関にかかっても病状等が共有され、効率的かつ質の高い療養環境が整備される。</p> <p>(2) 情報共有ツールを導入する医療機関数が増加することで、医療機関相互の連携が密になる。</p> | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 224,800 | 基金充当額 (国費) | 公 (千円) |
| | | 基金 国(A) | (千円) 74,933 | における | |

(様式4：東京都)

| | | | | | | |
|--------|--|-------------|-----------------|--------------|---|---------------------|
| | | 都道府県 (B) | (千円) 37,467 | 公民の別 (注1) | 民 | (千円) 74,933 |
| | | 計(A+B) | (千円) 112,400 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 112,400 | | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 3 | | | | | |
| 事業名 | 救急搬送患者受入体制強化事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 206,400千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 187頁 第4章 課題 ~ 211頁 第5章2 救急医療の取組 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都、救急医療機関 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 身近な地域で誰もが適切に救急医療を受けられるよう、限られた資源を有効に活用し、救急搬送患者の増加に対応する医療機関における急性期機能を充実強化する必要がある。 アウトカム指標：救急医療機関における休日夜間帯の応需率の向上 72.3% (平成28年平均) 向上 | | | | | |
| 事業の内容 | 都が実施したモデル事業において、救急外来に救急救命士を配置することで救急依頼の不应需が改善されたことを踏まえ、急性期医療機関の円滑な救急搬送患者受入体制を確保するため、救急外来に救急救命士を配置する際の人件費を補助する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 補助対象施設 32施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 救急医療機関の救急患者応需率を向上させ、急性期医療機関の受入体制を充実強化することで、急性期を担う医療機関(病棟)と回復期を担う医療機関(病棟)との機能分化が促進される。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 206,400 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 103,200 | 民 | (千円) 103,200 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 51,600 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 154,800 | | (千円) |
| | | | その他(C) | (千円) 51,600 | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 4 | | | | | |
| 事業名 | 院内助産所・助産師外来開設施設設備整備 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 3,811千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 187頁 第4章 課題 医療連携の強化 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内の病院 (国、独立行政法人、地方独立行政法人、都及び公益財団法人東京都保健医療公社が設置する病院を除く) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 出生年齢が高齢化し、ハイリスク分娩が増加する中、地域医療構想に基づく機能分化と連携を一層推進していくことで、産科への集中を緩和するとともに、妊産婦のニーズに応じた安心安全な出産の場の提供ができるよう支援する必要がある。 | | | | | |
| | アウトカム指標：院内助産所・助産師外来設置医療機関 院内助産所8施設、助産師外来56施設(H30開設調査) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 勤務環境改善施設整備事業及び勤務環境改善設備整備事業 ・院内助産所・助産師外来の開設等に必要な施設・設備の整備 | | | | | |
| アウトプット指標 | 事業実施病院：1病院 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 産科医と助産師の役割分担を促進し、ハイリスク分娩の増加による産科への集中を緩和するとともに、妊産婦のニーズに応じた安心安全な出産の場を提供する。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 3,811 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,693 | 民 | (千円) 1,693 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 847 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 2,540 | | (千円) |
| | | | その他(C) | (千円) 1,271 | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | |
|--------------------|--|-------------|---------|------------------------------------|---------|----------------------|------|
| 事業の区分 | I. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業 | | | | | | |
| 整理番号 | 5 | | | | | | |
| 事業名 | がん診療施設施設設備整備費補助 | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 1,984,363千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 184頁、185頁 第4章 課題、 205頁 第5章2 がん医療の取組 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内のがん診療医療機関 | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成33年3月31日 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 高齢化によるがん患者の増加が見込まれる中、地域医療構想に基づく機能分化と連携を一層推進していくことで、良質かつ適切ながんの集学的治療を提供する体制を確保し、がん医療提供体制を確保・充実していく必要がある。 | | | | | | |
| | <p>アウトカム指標：地域医療構想に基づく平成37年の必要病床数 (高度急性期：15,888床、急性期：42,275床、回復期：34,628床、慢性期：20,973床) (参考)平成28年度病床機能報告に基づく申告件数 (高度急性期：27,092床、急性期：44,324床、回復期：9,499床、慢性期：23,402床)</p> <p>地域医療構想の必要病床数は、医療需用(患者数)の推計値を元に算出しており、病床機能報告は、各病院の病棟ごとの自己申告に基づくため、あくまで参考値として掲載している。</p> | | | | | | |
| 事業の内容 | がん診療連携拠点病院、東京都がん診療連携拠点病院、東京都がん診療連携協力病院、地域がん診療病院及びがん診療を実施する公的医療機関において、がん患者の治療のための施設及び医療機器等の整備に係る経費について補助を行う。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 施設・設備整備実施施設数 20施設 | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 施設を整備することで、がん医療提供体制の集約化が図られ、病床の機能分化の推進に寄与する。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 | 公 | (千円) |
| | | (A + B + C) | | 1,984,363 | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | (千円) | における 公民の別 (注1) | 民 |
| 都道府県(B) | | | 277,257 | 138,629 | 277,257 | | |

(様式4:東京都)

| | | | | | | |
|--------|---|----------|-------------------|--|--|-----------------------------|
| | | 計(A + B) | (千円) 415,886 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 1,568,477 | | | |
| 備考(注3) | 平成30年度基金所要見込額： 215,886(千円) 平成31年度基金所要見込額： 125,566(千円) 平成32年度基金所要見込額： 74,434(千円) | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 6 | | | | | |
| 事業名 | 在宅歯科医療推進事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 6,867千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 191頁 第4章 課題 在宅療養生活の支援 217頁 第5章2 在宅療養の取組 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(東京都歯科医師会に委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 今後、増加が見込まれる在宅療養者等に対して、適切な在宅歯科医療が提供できるよう、地域における多職種連携の取組を推進していく必要がある。 アウトカム指標: 在宅療養支援歯科診療所781か所(平成30年1月1日現在) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 介護支援専門員や訪問看護師など在宅療養を支える多職種に対し、歯科に関する知識の普及や歯科支援の重要性などの理解を促進する。 1 講習会の開催 2 チェックシートの配布 等 | | | | | |
| アウトプット指標 | 講習会の実施 4回/年度 チェックシートの配布 40,000部 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 在宅療養を支える多職種に歯科支援の大切さを普及啓発することにより、歯科と多職種との連携が促進され、在宅歯科医療のニーズが増加し、在宅歯科医療に取り組む歯科医療機関の増加が見込まれる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 6,867 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 0 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,108 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 554 | | (千円) 1,108 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 1,662 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | その他(C) | (千円) 5,205 | | (千円) 1,108 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|---------------------|-----------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------|
| 事業の区分 | . 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 7 | | | | | |
| 事業名 | 入退院時連携強化事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 372,629 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 191 頁 第 4 章 課題 在宅療養生活の支援 217 頁 第 5 章 2 在宅療養の取組 | | | | | |
| 事業の実施主体 | (1) 東京都(東京都看護協会に委託予定) (2) 都内 200 床未満の病院 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域の在宅患者等が、入院医療機関から在宅療養への円滑な移行や安定した在宅療養生活の継続ができるような在宅療養環境整備が必要。 アウトカム指標: 退院支援を実施している診療所及び病院数 243 所 (H27) 増やす (H35) 入退院支援に関わる研修受講者数 1,497 人(H27) 3,177 人 (H32) | | | | | |
| 事業の内容 | (1) 研修事業 入退院時における入院医療機関と地域の医療・介護関係者の連携・情報共有の一層の強化を図るため、医療・介護関係者を対象とした実践的な研修を実施 (2) 補助事業 入退院支援に取り組む人材の配置に伴う人件費を補助し、医療機関における入退院支援体制の充実を図るとともに、病院と地域の医療・介護関係者の連携を支援 | | | | | |
| アウトプット指標 | (1) 研修受講者 300名 (2) 補助施設数 90病院 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 医療機関における入退院支援に取り組む人材を育成・確保するとともに、入退院時における地域との連携を一層強化し、在宅療養生活への円滑な移行を促進する。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | (千円) 372,629 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 33,903 | 民 | (千円) 33,903 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 16,951 | | |
| | | | 計(A + B) | (千円) 50,854 | | |
| | | | その他(C) | (千円) | | (千円) |

(様式4:東京都)

| | | | | | | |
|--------|--|--|---------|--|--|--------|
| | | | 321,775 | | | 33,903 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | . 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 8 | | | | | |
| 事業名 | 在宅医療参入促進事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 16,519 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 第4章 東京の将来の医療～グランドデザイン～ 安心して暮らせる東京を築く人材の確保・育成 在宅療養を支える人材の確保・育成 在宅療養患者の安心した療養生活を支えるため、医療・介護人材等を確保・育成することが必要 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(関係団体等に委託予定) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 都において2025年には、在宅医療等の大幅な増加が見込まれる(2013年から約1.5倍)。そのため、在宅医療等を行う医師を増やし、需要に対応することが喫緊の課題となっている。 | | | | | |
| | アウトカム指標： 訪問診療を実施する一般診療所数〔1871施設(H26時点)〕 3年間で400施設の増加。 | | | | | |
| 事業の内容 | 訪問診療等をしていない医師対し、 ・在宅医の役割や取組、地域における連携等 ・24時間診療体制を確保し、実践している好事例・先駆的な事例を発表 ・経験年数の長い在宅医と参入を考える在宅医でディスカッション等の実施 の内容を含むセミナー等を実施する | | | | | |
| アウトプット指標 | 参加医師数 80名 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 在宅医療に関する重要性について認識をしてもらうとともに、地域における24時間体制構築の手法を伝え地域における実践につなげられるようにすることで、医師の在宅医療への参入促進を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 16,519 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 2,666 | | |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 1,333 | 民 | (千円) 2,666 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 3,999 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |

(様式4:東京都)

| | | | | | |
|--------|--------|----------------|--|--|---------------|
| | その他(C) | (千円) 12,520 | | | (千円) 2,666 |
| 備考(注3) | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | |
|--------------------|---|--------------------------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | |
| 整理番号 | 9 | |
| 事業名 | 小児等在宅医療推進研修事業 | 【総事業費 (計画期間の総額)】 4,372千円 |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 195頁 第4章 課題 地域医療を担う人材の確保・育成 217頁 在宅療養の取組 課題 地域における在宅療養支援体制の確保 (1)小児等の在宅医療を地域で支える仕組みづくり | |
| 事業の実施主体 | 東京都(委託にて実施) | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>東京都医療機能実態調査(平成29年3月)によると、小児等在宅医療に対応している医療機関は非常に少なく、その理由として、対応の仕方がわからない、経験・知識がないとの声が多くある。このため、在宅医及び多職種へ小児医療に関する知識を付与することで、小児等在宅医療への参入を促進し、小児等在宅医療の推進を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 小児等在宅医療に対応している病院数：約15施設(調査に回答した病院数：537施設のうち)(H29.3) 増加(H32年度末) 小児等在宅医療に対応している診療所数：約104施設(調査に回答(8,510施設)し、訪問診療を実施している1,748施設のうち)(H29.3) 増加(H32年度末)</p> | |
| 事業の内容 | <p>小児医療に関する在宅医及び多職種向けの研修を以下のとおり実施することで、小児等在宅医療への参入促進を図る。</p> <p>【基礎編研修】 座学研修により、小児等在宅医療の現状や各種制度等の最新情報を学ぶ。</p> <p>【実践編研修】 小児等への訪問診療を実施している診療所への同行研修により、現場での動きや小児医療特有の機器の使用方法などを学ぶ。</p> | |
| アウトプット指標 | <p>【基礎編研修】 研修修了者数：年間30名 (3カ年で90名を目指す)</p> <p>【実践編研修】</p> | |

| | | | | | | | | |
|-----------------|--|---------------------|-------------|------|-----------------------------------|------------------------|-------|---------------------|
| | 研修修了者数：年間10名 (3ヵ年で30名を目指す) | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修実施により、小児等在宅医療を取り巻く状況や各種制度等の情報の把握、実際の現場での手技等を習得することで、小児等在宅医療へ参入する上での不安を軽減するとともに、小児等在宅医療の必要性の再認識を促すことができる。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | (千円) | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 民 | (千円) | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | (千円) | (千円) |
| | | | 都道府県 (B) | | | | (千円) | 705 |
| | | | 計(A + B) | | | | (千円) | 353 |
| | | その他(C) | | (千円) | | | 1,058 | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | (千円) | 3,314 | 705 | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 10 | | | | | |
| 事業名 | 在宅療養に係る多職種連携連絡会の運営 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 12,083千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 191頁 第4章 課題 在宅療養生活の支援 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(公益社団法人東京都医師会への委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>地域包括ケアシステムの推進に向け、多職種が一堂に会し、各地域で連携して在宅療養患者を支える体制を整備するために必要な方策の検討を行うとともに、地域包括ケアシステムにおける在宅療養について、都民の理解を深めるための普及啓発を実施する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：訪問診療を実施している病院数及び診療所数 2,432所(H29年4月) 増加(H32年度末)</p> | | | | | |
| 事業の内容 | 医療と介護に関係する団体による多職種連携連絡会を運営し、多職種相互の理解促進や連携強化を図るとともに、在宅療養について都民の理解を促進する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 多職種連携連絡会の開催 12回、都民向け普及啓発の実施 4回 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 地域包括ケアシステムの推進に向け、多職種が一堂に会す多職種連携連絡会を開催することで、多職種相互の連携の強化を図ることができる。また都民向けに普及啓発を行うことで、地域包括ケアシステムにおける在宅療養について理解促進を図ることができる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 12,083 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,950 | 民 | (千円) 1,950 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 975 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 2,925 | | (千円) 1,950 |
| | | その他(C) | (千円) 9,158 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | |
|--------------------|---|----------------------------------|------|------|--------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | |
| 整理番号 | 11 | | | | |
| 事業名 | 区市町村在宅療養推進事業 | 【総事業費 (計画期間の総額)】 620,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都内全域 | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 191頁 第4章 課題 在宅療養生活の支援 217頁 第5章2 在宅療養の取組 | | | | |
| 事業の実施主体 | 区市町村 | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 高齢者人口の割合は今後上昇を続け、平成37年(2025年)には、およそ4人に1人が65歳以上の高齢者となる。 高齢で医療や介護が必要になっても、できるだけ住み慣れた地域で、安心して療養生活を送れる体制を実現するため、医療と介護の連携を推進していくことが必要 | | | | |
| | アウトカム指標：訪問診療を実施している病院数及び診療所数 2,432所(H29年4月) 増加(H32年度末) | | | | |
| 事業の内容 | <p>医療面における支援体制を整備するために、区市町村が実施する以下の取組について支援を行う。</p> <p>(1) 在宅医療と介護の提供体制の充実に向けた先駆的な取組への支援 地域支援事業(ア)～(ク)に該当しない取組や先駆的な取組について、区市町村が実施する独自の取組について支援する。</p> <p>(2) 切れ目のない在宅医療提供体制の構築や医療・介護関係者等への情報共有に対する支援 在宅医療・介護連携推進事業(ウ)及び(エ)に関する地域支援事業交付金対象外経費について、区市町村の取組を支援する。</p> <p>(3) 小児等在宅医療の推進 関係各部署、関係職種及び関係機関と連携し、地域の実情に応じて小児等在宅医療の提供体制を整備する。</p> | | | | |
| アウトプット指標 | 事業実施 62 区市町村 | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 在宅における医療と介護の連携を推進するにあたり、医療側から介護側へ支援するための体制を整備するために、区市町村が実施する取組を支援する。 | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金 | 総事業費 | (千円) | 基金充当 | 公 (千円) |

(様式4:東京都)

| | | | | | | | |
|--------|--------|-----------------|-----------------|-----------------------------------|------|---------|---------------------|
| | 額 | (A + B + C) | 620,000 | 額 (国費) における 公民の別 (注1) | | 100,049 | |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 100,049 | | 民 | | |
| | | 都道府県 (B) | (千円) 50,024 | | | | (千円) |
| | | 計(A + B) | (千円) 150,073 | | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | その他(C) | (千円) 469,927 | | | (千円) | | |
| 備考(注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 12 | | | | | |
| 事業名 | 退院支援人材育成研修 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 6,712千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 188頁 第4章 課題 在宅移行支援の充実 217頁 第5章2 在宅療養の取組 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 高齢化社会を迎える都においては、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築とともに、地域包括ケアシステムの構築が重要となる。このため、病院の退院調整部門の重要性が増すことから、これらの業務に従事する職員の育成を行う。 アウトカム指標：医療ソーシャルワーカー＋社会福祉士＋精神保健福祉士 2,147名(H27医療施設調査) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 対象：退院調整部門を設置していない病院で、退院支援・退院調整に従事している又は従事する予定の職員 内容：退院支援・退院調整に必要な知識及び技術に関する研修を実施 | | | | | |
| アウトプット指標 | 1回あたり84名程度、7日間の研修を年2回実施。 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 退院支援業務に従事する人材に対し、地域との関係構築の一助として、また更なる連携強化の契機として研修を提供する。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 6,712 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,083 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 542 | | 民 (千円) 1,083 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 1,625 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | その他(C) | (千円) 5,087 | | (千円) 1,083 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 13 | | | | | |
| 事業名 | 在宅歯科診療設備整備事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 109,140千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 191頁 第4章 課題 在宅療養生活の支援 217頁 第5章2 在宅療養の取組 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 今後、増加が見込まれる在宅療養者等に対して、安全で安心な質の高い在宅歯科医療を提供する必要がある。 アウトカム指標：在宅療養支援歯科診療所781か所(平成30年1月1日現在) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 在宅歯科医療を実施している又は新たに在宅歯科医療を実施する医療機関が整備する在宅歯科医療に必要な医療機器等の備品購入費を補助する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 補助対象医療機関 30か所/年度 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 在宅歯科医療に取り組む医療機関を増やすことにより、在宅療養支援歯科診療所の増加に繋がる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 109,140 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 11,741 | 民 | (千円) 11,741 |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 5,871 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 17,612 | | (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 91,528 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------|---------|---------|-----------------------------------|--------|--------|--|--------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | | | | |
| 整理番号 | 14 | | | | | | | | |
| 事業名 | 精神保健福祉士配置促進事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 118,838千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 208頁 第5章2 精神障害者の地域移行と生活支援 | | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 平成26年4月から改正精神保健福祉法が施行され、医療保護入院者の退院促進に関する措置として、患者本人の人権擁護の観点から可能な限り早期治療・早期退院ができるよう、精神科病院の管理者に、退院後生活環境相談員、地域援助事業者との連携、医療保護入院者退院支援委員会の開催等が義務付けられた。 そのため、医療機関は退院後生活環境相談員の役割を担う精神保健福祉士等の人材確保が必要。 | | | | | | | | |
| | アウトカム指標：入院後1年時点の退院率 87.5%(H27末) 90%以上(H35末) | | | | | | | | |
| 事業の内容 | 医療保護入院者の早期退院に向けた、病院内外における調整や、退院支援計画、退院支援委員会への地域援助事業者の出席依頼など、医療と福祉の連携体制を整備する役割が精神保健福祉士に期待されることから、医療保護入院者の早期退院を目指す精神科医療機関における精神保健福祉士の確保のための人件費の補助を行う。 | | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 新たに精神保健福祉士を配置した病院の数 54病院以上 | | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 精神保健福祉士を病院に配置することにより、退院支援や医療と福祉の連携体制の整備が促進され、精神障害者の早期退院の支援につながる。 | | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 民 | (千円) | | |
| | | (A+B+C) | | 118,838 | | | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | (千円) | | (千円) |
| | | | 都道府県(B) | | | | (千円) | | 19,177 |
| | | | 計(A+B) | | | | (千円) | | |
| その他(C) | | (千円) | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) | | | | |
| | | | | | | | 90,072 | | |

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|---------------|---------------|--------------------------------|-------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 15 | | | | | |
| 事業名 | 精神障害者早期退院支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 9,971千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 208頁 第5章2 精神障害者の地域移行と生活支援 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>平成26年4月から改正精神保健福祉法が施行され、医療保護入院者の退院促進に関する措置として、患者本人の人権擁護の観点から可能な限り早期治療・早期退院ができるよう、精神科病院の管理者に、退院後生活環境相談員の選任、地域援助事業者との連携、医療保護入院者退院支援委員会の開催等が義務付けられた。</p> <p>そのため、病院における、退院支援委員会に地域援助事業者を出席させる体制の整備が必要。</p> | | | | | |
| | <p>アウトカム指標：入院後1年時点の退院率</p> <p>87.5%(H27末) 90%以上(H35末)</p> | | | | | |
| 事業の内容 | <p>医療保護入院者へ地域援助事業者を紹介し本人や家族の相談支援を行うほか、退院支援委員会への地域援助事業者の出席依頼など、地域援助事業者との連携を図り、地域における医療と福祉の連携体制を整備する精神科医療機関に対する支援を行う。</p> <p>地域援助事業者が、医療機関における医療保護入院者の退院支援のための会議へ出席した際の事前調整経費等</p> <p>退院支援のための会議に地域援助事業者を出席させた医療機関への事務費等補助</p> | | | | | |
| アウトプット指標 | 地域援助事業者が退院支援委員会に参加した回数 2万回以上 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 医療保護入院患者退院支援委員会等により地域援助事業者等が参加した際の費用や医療機関の事務手数料を補助することにより、地域援助事業者等が退院支援委員会等に参加する機会が増え、医療と福祉の関係者の連携が強化され、精神障害者の早期退院の支援につながる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 9,971 | 基金充当額 | 公 | (千円) 644 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,609 | (国費) における | |

(様式4：東京都)

| | | | | | | |
|--------|--|---------------|---------------|--------------|---|---------------------|
| | | 都道府県 (B) | (千円) 805 | 公民の別 (注1) | 民 | (千円) 965 |
| | | 計(A + B) | (千円) 2,414 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 7,557 | | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 16 | | | | | |
| 事業名 | 訪問看護ステーション代替職員(研修及び産休等)確保支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 15,000千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 195頁 第4章 課題 在宅療養を支える人材の確保・育成 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 訪問看護ステーション | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 今後増加が見込まれる在宅療養者等に対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅療養にかかるサービス提供体制の強化が必要。 アウトカム指標: 訪問看護ステーションの従事者数常勤換算 4,477人(平成28年度看護師等業務従事者届) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 1 研修派遣による代替職員の確保 現に雇用する訪問看護師の資質向上を図るため、当該現任訪問看護師を事業所等が策定する研修計画に基づく研修等に参加させる場合に必要な代替職員等を確保するために係る経費を補助する。 2 産休・育休・介休による代替職員の確保 事業所の規程に基づき、現に雇用する訪問看護師の産休・育休・介休の代替職員を確保するために係る経費を補助する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 代替勤務7,909時間分の代替職員雇用経費に対する補助を実施。 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 小規模な訪問看護ステーションにおいては、人員体制等の理由から、職員の外部研修への参加や産休・育休・介休の取得が困難な状況にある。このため、本事業により、外部研修等への参加や産休・育休・介休の取得のための環境の整備を支援することは、訪問看護師の定着及び訪問看護サービスの安定的な供給につながる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 15,000 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 2,421 | | 民 | (千円) 2,420 |
| | | 都道府県(B) | (千円) 1,210 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | 計(A+B) | (千円) 3,631 | | | (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 11,369 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|------|
| 事業の区分 | 居宅等における医療の提供に関する事業 | | | | | | |
| 整理番号 | 17 | | | | | | |
| 事業名 | 訪問看護ステーション事務職員雇用支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 48,450千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 195頁 第4章 課題 在宅療養を支える人材の確保・育成 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 訪問看護ステーション | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 今後、増加が見込まれる在宅療養者等に対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅療養に係るサービス提供体制の強化が必要。 アウトカム指標：訪問看護ステーションの従事者数常勤換算 4,477人(平成28年度看護師等業務従事者届) 増加 | | | | | | |
| 事業の内容 | 訪問看護ステーションの労働環境の改善を図るため、訪問看護ステーションが事務職員を雇用し、看護職員の事務負担を軽減することで、看護職員が専門業務に注力することができる環境を整備する場合に、新たな事務職員の雇用に係る経費を補助する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 事務職員を新たに配置する訪問看護ステーション数70か所(平成29年度新規配置33か所を含む) | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 事務職員未配置の訪問看護ステーションが、あらたに事務職員を配置して事務体制を整えることで、看護職の負担が軽減され、定着につながる。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 48,450 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) | |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 7,819 | 民 | (千円) 7,818 | |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 3,909 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) | (千円) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 11,728 | | | (千円) |
| | | | その他(C) | (千円) 36,722 | | (千円) | |
| 備考(注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票18

| | | |
|------------------------|---|-----------------------|
| 事業の区分 | 3. 介護施設等の整備に関する事業 | |
| 事業名 | 東京都介護施設等整備事業 | 【総事業費】 6,936,786千円 |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | <p>地域包括ケアシステムの構築に向けて、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及び地域密着型サービス等の整備等を支援することにより、地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。</p> <p>特別養護老人ホームや介護老人保健施設の整備については、東京都の中でも地域による施設の偏在が課題となっており、入所等を希望する高齢者が住み慣れた地域で施設に入所等ができるよう、東京都全体の整備率の向上を図る。</p> <p>地域密着型サービスの整備に当たっては、都内では整備に適した土地の確保が困難であること、小規模な事業所であるため、スケールメリットが働かず採算性が確保しにくいことなどから、整備が進みにくい状況にあり、地域密着型サービスの種類に応じた様々な支援を行い、整備を促進する。</p> <p>アウトカム指標： 〈参考〉第7期東京都高齢者保健福祉計画に掲げる施設整備目標 ・特別養護老人ホーム 46,623床 → 62,000床（平成37年度まで） ・介護老人保健施設 21,397床 → 30,000床（平成37年度まで） ・認知症高齢者グループホーム 10,616床 → 20,000床（平成37年度まで） ※現状は、平成30年3月1日時点。</p> | |
| 事業の内容 | <p>①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型特別養護老人ホーム 64床 ・介護老人保健施設（定員29人以下） 1床 ・都市型軽費老人ホーム 120床 ・定期巡回随時対応型訪問介護看護 13施設 ・小規模多機能型居宅介護事業所 21施設 ・認知症対応型通所介護 2施設 ・認知症高齢者グループホーム 17施設 ・看護小規模多機能型居宅介護 8施設 ・介護予防拠点 3施設 ・地域包括支援センター 2施設 ・施設内保育施設 2施設 <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム 523床 ・地域密着型特別養護老人ホーム 53床 ・介護老人保健施設 63床 ・都市型軽費老人ホーム 189床 ・定期巡回随時対応型訪問介護看護 13施設 ・小規模多機能型居宅介護事業所 141床 ・認知症高齢者グループホーム 436床 ・看護小規模多機能型居宅介護 75床 ・施設内保育施設 1施設 <p>③介護施設等の整備に必要な定期借地権設定のための一時金に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム 9施設 ・都市型軽費老人ホーム 1施設 ・小規模多機能型居宅介護事業所 4施設 ・認知症高齢者グループホーム 5施設 ・施設内保育施設 1施設 ・定期巡回随時対応型訪問介護事業所 1施設 <p>④介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の特養多床室のブラシバシー保護のための改修支援 52床 ・介護療養型医療施設等の転換整備支援 31床 | |
| アウトプット指標 | 上記事業内容の施設に対し、整備費補助、定期借地権設定のための補助を行う。 | |

| | | | | | | |
|-----------------------|---|-------------------------|-----------|-------------------------------|--------------------|----------------------|
| アウトカムとアウトプットの関連 | 第7期計画予定している特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及び地域密着型サービス施設等の整備を促進することにより、65歳以上人口あたり地域密着型サービス施設等の定員総数を増やす。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 事業内容 | 総事業費 (A+B+C) (注1) | 基金 | | その他 (C) (注2) | |
| | | | 国 (A) | 都道府県 (B) | | |
| | ①地域密着型サービス施設等の整備 | 2,536,585 | 295,804 | 147,902 | 2,092,879 | |
| | ②施設等の開設・設置に必要な準備経費 | 1,978,169 | 900,286 | 450,143 | 627,740 | |
| | ③介護保険施設等の整備に必要な定期借地権設定のための一時金 | 2,140,764 | 1,206,418 | 603,209 | 331,137 | |
| | ④介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修 | 281,267 | 161,437 | 80,719 | 39,111 | |
| | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 6,936,785 | 基金充当額 (国費)における公民の別 (注1) | | 公 |
| | | 国 (A) | 2,563,945 | | | 2,563,945 |
| | | 都道府県 (B) | 1,281,973 | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | 計 (A+B) | 3,845,918 | | | |
| | その他 (C) | 3,090,867 | | | | |
| 備考 (注3) | 「事業に要する費用の額」における「その他 (C)」3,090,867千円については、平成28年度及び平成29年度に造成した同基金を充当する。 | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | |
|--------------------|---|---------|---------|-------|---------------------------------------|---|------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| 整理番号 | 19 | | | | | | |
| 事業名 | 周術期口腔ケア推進事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 5,170千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(東京都歯科医師会に委託) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | がん患者等の治療の苦痛を軽減し、患者のQOLを高めるため、周術期等の患者の状態に対応できる専門性の高い歯科医療従事者の育成が必要であるとともに、都民に対し周術期の口腔ケアの重要性を普及啓発する必要がある。 | | | | | | |
| | アウトカム指標: 都内のがん患者平均在院日数 20.2日 減少 | | | | | | |
| 事業の内容 | 都内の多くの歯科医療機関でがん患者等に対応できるよう、歯科医師歯科衛生士向けの研修を実施し人材育成を行う。あわせて、都民への普及啓発を行うため、都民向け講演会の開催やリーフレットの配布などを行う。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修会の開催 8回/年度 都民向け講演会の開催 1回/年度 | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 周術期等の口腔ケアに対応できる専門性の高い歯科医療従事者を育成するとともに都民への普及啓発を行うことにより、周術期の患者が身近な地域で歯科受診できる基盤整備が進み、周術期における口腔内合併症の予防や軽減に寄与し、治療効果を高め、がん患者の平均在院日数の減少に繋がる。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 民 うち受託事業等 (再掲)(注2) | |
| | | (A+B+C) | | 5,170 | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | (千円) |
| | | | 都道府県(B) | | | | (千円) |
| | | | 計(A+B) | | | | (千円) |
| その他(C) | | (千円) | 971 | 971 | | | |
| | | 3,713 | 9,71 | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | |

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 20 | | | | | |
| 事業名 | 新生児担当医育成支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 9,051千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | NICU新規入院児数が増加する中、専門的な研修において小児科を選択した医師に対し研修医手当等を支給することにより、ハイリスク新生児治療に対応可能な小児科医の増加を図る。 アウトカム指標：新生児集中治療室(NICU)329床(平成29年現在)維持 | | | | | |
| 事業の内容 | 臨床研修修了後の専門的な研修において小児科を選択し、かつNICU等で新生児医療を担当する医師に対し、研修医手当等を支給することにより、将来の新生児医療を担う医師の育成を図るものである。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 周産期母子医療センター6施設 手当支給者数31人 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修医へ支援することにより、将来新生児医療専門医を目指す医師の増加を図り、多くの患者の受け入れを可能とする。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 9,051 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 601 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,134 | 民 | (千円) 533 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 567 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 1,701 | | (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 7,350 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | |
|--------------------|--|----------------------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | |
| 整理番号 | 21 | |
| 事業名 | 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 | 【総事業費 (計画期間の総額)】 18,925 千円 |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 192 頁 第 4 章 課題 在宅療養生活の支援 195 頁 第 4 章 課題 在宅療養を支える人材の確保・育成 | |
| 事業の実施主体 | 東京都(公益社団法人東京都薬剤師会へ委託) | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養患者の中でも多数を占める高齢の患者は、とりわけ多剤服用による有害事象発生等のリスクが高まることから、薬剤師による服薬管理指導が必要 在宅療養患者が増加するなかで、薬局・薬剤師による訪問服薬指導は進んでいない | |
| | アウトカム指標： 在宅訪問薬剤管理指導実施件数の増加 | |
| 事業の内容 | <p>【薬剤師の知識・技能の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者・在宅療養患者の服薬管理に関する課題に的確に対応できる人材を育成するための研修を実施する(在宅訪問指導基礎研修、無菌調製技能習得研修)。 <p>【地域における連携体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 24時間対応や医薬品調達のための薬局間の具体的な連携方法等について研修を実施する(地域薬局連携促進研修)。 <p>【他職種との連携促進・患者側の理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域における在宅医療への薬剤師参加の状況や個別事例等をまとめ、関係機関等に周知する(訪問服薬指導等に関する情報提供)。 在宅患者やその患者家族を対象とした服薬管理講習会を実施する(地域住民向け服薬管理講習会)。 関係団体連絡会において薬剤師と他職種との連携促進に関する課題の協議や意見交換を行う(関係団体連絡会)。 | |
| アウトプット指標 | 在宅医療基礎研修の参加人数 a 在宅訪問指導基礎研修 400名 b 無菌調製技能習得研修 180名 地域薬局間連携促進研修の実施地区数 a 在宅医療連携研修 38地区 他職種連携促進・患者側理解促進に係る事業の実施地区数 | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-------------|----------|--------|-----------------------------------|---|------|------|-------|---------------------|-------|
| | a 訪問服薬指導状況把握 15地区 b 地域住民向け服薬管理講習会 23地区 | | | | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 薬剤師における在宅業務に必要な知識・技能の習得 在宅業務における薬局間の連携の促進 患者や関係職種による薬剤師の在宅医療参加の必要性の理解促進、他職種連携の促進 により、在宅訪問服薬管理指導実施件数の増加が見込まれる。 | | | | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) | | | | |
| | | (A + B + C) | | 18,925 | | | 民 | (千円) | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | | (千円) | 3,556 | うち受託事業等 (再掲)(注2) | |
| | | | 都道府県(B) | | | | | (千円) | 1,778 | | (千円) |
| | | | 計(A + B) | | | | | (千円) | 5,334 | | 3,556 |
| その他(C) | | (千円) | 13,591 | (千円) | 3,556 | | | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|---------------|---------------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 22 | | | | | |
| 事業名 | 島しょ看護職員定着促進事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 7,941千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(公益社団法人東京都看護協会へ業務委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 看護職員確保が困難な島しょ地域においては、職員数や地理的要因により研修受講の機会もほとんどなく、他の職員の配慮から離島による研修受講等を諦めてしまうことも多い。上記の理由が看護職員の離職理由の一つにもなっていることから、島しょ看護職員の働きやすい環境を整え、定着を促進する必要がある。 アウトカム指標：看護職員数119,136人(H26業務従事者届<実数>)増加(平成35年度末) (人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | |
| 事業の内容 | 出張研修を行い、島を離れずに研修を受ける機会を設けることで、看護職員のモチベーションの向上やケアの質の向上を図る。 島しょの看護師が研修等により一時的に島を離れる際に、代替看護師派遣を実施し、看護職員がより勤務を継続しやすい環境を整備する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 出張研修実施回数：8回 代替看護職員派遣回数：延べ14回 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 島しょ地域での出張研修や短期代替看護職員派遣を実施により、働きやすい環境を整えることは、看護職員の定着促進につながる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 7,941 | 基金充当額 | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,492 | 国費 | |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 746 | 公民の別 | 民 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 2,238 | (注1) | (千円) 1,492 |
| | | | その他(C) | (千円) 5,703 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 1,492 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------|---------|-------|---------------------------------------|----------------|------|--|------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | | | |
| 整理番号 | 23 | | | | | | | | |
| 事業名 | 歯科医療技術者対策 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 8,845千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (歯科衛生士確保支援は東京都歯科衛生士会、歯科技工士確保支援は東京都歯科技工士会に委託) | | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 歯科衛生士や歯科技工士は、若い世代の離職率が高く、潜在的労働力となっている場合も多いといわれている。そのため、歯科衛生士・歯科技工士確保の推進及び技術・知識の向上を通じた歯科医療の充実が必要である。 | | | | | | | | |
| | アウトカム指標： 歯科衛生士12,944名(H28業務従事者届) 増加 歯科技工士3,013名(H28業務従事者届) 増加 | | | | | | | | |
| 事業の内容 | ・出産・育児等の一定期間の離職をした歯科医療従事者に対する復職支援 ・歯科技工士及び歯科衛生士を目指す学生に対する支援(学生向け講演会等の実施) | | | | | | | | |
| アウトプット指標 | アウトプット目標：歯科技工士：1,000名(実習を含む) 歯科衛生士：300名(実習を含む) | | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修を実施することで、歯科衛生士・歯科技工士の人員の確保や専門的な技術・知識の習得により、歯科医療の充実が図られる。 | | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 民 | (千円) | | |
| | | (A+B+C) | | 8,845 | | | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | (千円) | | |
| | | | 都道府県(B) | | | | (千円) | | (千円) |
| | | | 計(A+B) | | | | (千円) | | 724 |
| その他(C) | | (千円) | | | うち受託事業等(再掲)(注2) (千円) 724 | | | | |
| | | | 7,759 | | | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 24 | | | | | |
| 事業名 | 休日・全夜間診療事業(小児) | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 948,622千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 211頁 第5章2 救急医療の取組 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(小児二次救急医療機関へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 休日及び夜間帯は医療機関の通常診療時間外のため、小児救急患者の搬送先選定が困難となることから、受入体制を整備する必要がある。 アウトカム指標：小児救急搬送症例のうち受入困難事例の件数1,307件(H27) 減少(H35年度末) | | | | | |
| 事業の内容 | 都内の小児科を標榜する医療機関の小児科医師等の確保及び病床の確保等に対する財政支援を行うことにより、休日及び夜間における入院治療を必要とする小児の救急患者の受入体制を整備する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 都内小児救急医療機関 53施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 安定した小児救急医療体制が確保でき、小児患者の搬送が円滑化する。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 948,622 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 13,546 | 民 | (千円) 13,546 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 6,772 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 20,318 | | (千円) 13,546 |
| | | | その他(C) | (千円) 928,304 | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 25 | | | | | |
| 事業名 | 小児集中治療室医療従事者研修事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 25,224千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 小児救命救急センター | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 小児集中治療医が不足する中、良質な小児救命、集中治療体制を維持していくため、小児の集中治療に係る専門的な実地研修をすることにより、小児集中治療室で従事する小児の救命救急医療及び集中治療を担う医師等を養成し、確保する。 アウトカム指標：小児救命救急センター数 2施設(H30現在) 維持 1日あたり小児救命救急センター医師数 28人(H28末時点) 維持 | | | | | |
| 事業の内容 | 小児の集中治療に係る専門的な実地研修をすることにより、小児集中治療室で従事する小児の救命救急医療及び集中治療を担う医師等を養成し、確保する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修受講者数(2施設で年間30名程度) | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 小児集中治療医を志す多くの医師が専門的な実地研修を受講することで、充実した小児救命・集中治療体制の確保を図ることが可能となる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 25,224 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 2,369 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 2,370 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 1,185 | | (千円) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 3,555 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | その他(C) | (千円) 21,669 | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 26 | | | | | |
| 事業名 | 産科医等確保支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 320,086千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 分娩を取り扱う病院、診療所及び助産所が減少していることから、産科医等の勤務環境を改善し、産科医療機関及び産科医等の確保を図ることにより幅広い患者の受け入れを可能にする。 アウトカム指標： 手当支給の産科・産婦人科医師数615人(H29) 増加 分娩1,000件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師(H26 都平均14人) | | | | | |
| 事業の内容 | 実際に分娩を取り行う病院、診療所及び助産所が減少している現状に鑑み、地域でお産を支える産科医等に対して分娩手当を支給することにより、処遇改善を通じて産科医療機関及び産科医等の確保を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 手当支給者 1,743人 手当支給施設：病院 34施設、診療所 31施設、助産所 23施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 産科医等へ支援し、分娩取扱医療機関の体制を整えることで、幅広い患者の受け入れを可能とする。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 320,086 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 9,491 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 37,132 | | 民 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 18,566 | | |
| | | | 計(A+B) | (千円) 55,698 | | |
| | | その他(C) | (千円) 264,388 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 27 | | | | | |
| 事業名 | 産科医等育成支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 41,441千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 分娩を取り扱う病院、診療所及び助産所が減少していることから、専門性の高い産科医を配置することで、医療機関での患者受け入れの拡大を図る。 アウトカム指標：手当支給施設の産科・産婦人科医師数249人(H29) 増加 分娩1,000件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師(H26 都平均14人) | | | | | |
| 事業の内容 | 臨床研修修了後の専門的な研修において、産科を選択する医師に対し、研修医手当等を支給することにより、将来の産科医療を担う医師の育成を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 手当支給者数86人 手当支給施設：病院17施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修医手当を支給する病院を拡大していくことにより、産科を選択する研修医の処遇改善が図られる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 41,441 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 1,414 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 4,395 | 民 | (千円) 2,981 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 2,198 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 6,593 | | (千円) |
| | | | その他(C) | (千円) 34,848 | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|-----------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 28 | | | | | |
| 事業名 | 救急医療機関勤務医師確保事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 945,888 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 高齢化を踏まえ、限られた資源を有効に活用し、救急患者をいつでも、どこでも、誰でも、症状に応じた適切な医療に確実かつ迅速につなげる取り組みを推進 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 救急告示医療機関 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 救急患者搬送数は、平成13年から平成28年にかけて12万4千人増加したが(56万7千人 69万1千人)、一方で、救急患者を受け入れる救急告示医療機関は、平成13年から平成29年にかけて64施設減少した(384施設 320施設)。救急告示医療機関の減少及び救急搬送需要の増加に対応するため、安定的な救急医療体制の確保が必要である。 | | | | | |
| | アウトカム指標： 救急告示医療機関(平成29年12月31日現在)320施設 維持 | | | | | |
| 事業の内容 | 医療機関が休日及び夜間において救急医療に従事する医師に対し、救急勤務医手当を支給する場合、補助金を交付する。 【補助対象】 救急告示医療機関、総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センター 【基準単価】 休日昼間4,523円/回 【補助率】 2/3(独立行政法人、大学法人等は1/3) 毎日夜間6,220円/回 | | | | | |
| アウトプット指標 | 救急医療を提供する都内の医療機関が、救急勤務医に支給する手当に対して補助を行う(95施設、10,169人分)。 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 救急医療を提供する医療機関が支給する救急勤務医手当に対し補助を実施することで、救急医療を担う医師の処遇改善を図ることができ、救急告示医療機関の確保に寄与する。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 945,888 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 17,866 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 102,859 | 民 | (千円) 84,993 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 51,430 | | |
| | | | 計(A+B) | (千円) 154,289 | | |
| | | | その他(C) | (千円) 791,599 | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|---------|---------------------|--------|-----------------------------------|---|------|------|---|------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | | | | |
| 整理番号 | 29 | | | | | | | | | |
| 事業名 | 救急専門医等養成事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 13,705千円 | | | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 211頁 第5章2 救急医療の取組 | | | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(公益社団法人東京都医師会へ委託) | | | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 平成13年から平成28年における救急患者搬送数を見ると、平成13年の56万7千人から平成28年には69万2千人となっており、12万5千人増加している。身近な地域で誰もが適切な救急医療を受けられるよう、救急告示医療機関に勤務する医師の資質の向上が必要である。 | | | | | | | | | |
| | アウトカム指標: 救急医療の資質の向上 平成28年度までに研修を受講した医師が所属する医療機関数 60 施設増加 | | | | | | | | | |
| 事業の内容 | 公益財団法人東京都医師会に事業委託し、救急告示医療機関に勤務している医師に対し、都内の救命救急センター等で救急医療等に関する専門的な研修を行う。 | | | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 5施設で162名の受講枠を確保 | | | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 救急医療に関する専門的な研修をより多くの救急告示医療機関に従事する医師が受講することで、救急医療の資質の向上を図ることができる。 | | | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) | | | |
| | | (A+B+C) | | 13,705 | | | | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | | (千円) | 民 | (千円) |
| | | | 都道府県(B) | | | | | (千円) | | |
| | | | 計(A+B) | | | | | (千円) | | |
| その他(C) | | (千円) | うち受託事業等 (再掲)(注2) | (千円) | | | | | | |
| | | 11,846 | | 1,239 | | | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------|---------|--------|-----------------------------------|-------|--------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| 整理番号 | 30 | | | | | | | |
| 事業名 | 新生児医療担当医確保支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 29,195千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | NICU新規入院児数が増加する中、申請時医療担当医の勤務状況を改善することで医師を確保し、多くの早産児等の受け入れを可能にする。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：新生児集中治療室(NICU)329床(平成29年現在)維持 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 医療機関におけるNICU(診療報酬の対象となるものに限る。)において、新生児医療に従事する医師に対して、新生児担当医手当等を支給することにより、過酷な勤務状況にある新生児医療担当医の処遇改善を図る。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 周産期母子医療センター13施設 手当支給者数122人 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 新生児医療担当医を確保し、NICUの体制を整えることで、多くの早産児等の受け入れが可能となる。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | (千円) | | |
| | | (A+B+C) | | 29,195 | | 1,666 | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | (千円) | 公民の別 (注1) | (千円) |
| | | | 都道府県(B) | | | (千円) | | 1,991 |
| | | | 計(A+B) | | | (千円) | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| その他(C) | | (千円) | 23,710 | (千円) | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 31 | | | | | |
| 事業名 | 東京都地域医療支援ドクター | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 13,421 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 201 頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>医師の確保が困難な地域や診療科等に従事する医師を都が確保し、医師不足が深刻な地域の医療機関に当該医師を派遣することにより、地域の医療提供体制を支援する。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へき地町村が必要とする医師充足率 96.4% (H29.4.1) 100% (H35 年度末) ・人口10万人あたり医師数 小児科 17.4 産科・産婦人科 11.6 救急科 3.6(各H26) 増加(H35 年度末) | | | | | |
| 事業の内容 | <p>地域医療の支援に意欲を持つ医師を「東京都地域医療支援ドクター」として都が採用し、医師不足が深刻な多摩・島しょの市町村公立病院等に一定期間派遣する。</p> <p>派遣期間(支援勤務)以外は、専門医・指導医等へのキャリアパスを実現できるよう、本人の希望を踏まえて、都立病院等において専門研修を実施する。</p> <p>なお、派遣期間中は派遣先の市町村立公立病院等が派遣医師に対して給与と医師派遣手当を支給するが、医師派遣手当を支給した派遣先町村に対して都が補助金を交付する。</p> | | | | | |
| アウトプット指標 | 医師の確保が困難な地域への医師派遣6名 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 医師の確保が困難な地域への医師派遣により、都内医師の地域・診療科偏在の解消を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 13,421 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 2,522 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 2,522 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 1,261 | | (千円) |
| | | | 計(A+B) | (千円) | | うち受託事業等 |

(様式4:東京都)

| | | | | | | |
|--------|--|--------|---------------|--|--|----------|
| | | | 3,783 | | | (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 9,638 | | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | |
|--------------------|--|---------------------|-----------------|----------------|----------------------------------|---------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| 整理番号 | 32 | | | | | | |
| 事業名 | 病院勤務者勤務環境改善事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 207,839千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内の病院 (国、独立行政法人、地方独立行政法人、都及び公益財団法人東京都保健医療公社が設置する病院を除く) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 病院における長時間労働、当直、夜勤・交代制勤務等の労働環境により離職を余儀なくされるケースや出産・育児等により離職する又は復職が困難となるケースなどにより、医師及び看護師の確保が困難なため、勤務負担が増加している状況となっている。 アウトカム指標：医師数(医療施設の従事者)41,445名(平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査) 増加 看護職員数125,774人(平成28年衛生行政報告例<実数>) 増加 | | | | | | |
| 事業の内容 | 1 勤務環境改善及び再就業支援事業 (1) 復職研修及び就労環境改善事業 ア 復職研修事業 イ 就労環境改善事業 (2) 相談窓口事業 2 チーム医療推進の取組 (1) 医師の事務作業を補助する職員(医師事務作業補助者)の配置に伴う研修の実施 (2) 助産師及び看護師の活用 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 事業実施病院：52病院 | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 勤務環境改善に向けた病院独自の取組を支援し、さらなる勤務環境改善を促進させ、病院の提供すべき医療体制に必要な医師及び看護師の確保を図る。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | (千円) 207,839 | 基金充当額 | 公 | (千円) 1,959 | |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 26,450 | における 公民の別 (注1) | 民 | |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 13,225 | | | (千円) 24,491 |
| | | | 計(A + B) | (千円) 39,675 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |

(様式4:東京都)

| | | | | | |
|--------|--------|-----------------|--|--|------|
| | その他(C) | (千円) 168,164 | | | (千円) |
| 備考(注3) | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 33 | | | | | |
| 事業名 | 医療勤務環境改善支援センター事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 12,488千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (医業経営コンサルタントの配置を行う「医業分野アドバイザー事業」については、日本医業経営コンサルタント協会東京都支部へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 長時間労働、当直、夜勤・交代制勤務等の労働環境による離職がさらなる労働環境の悪化と離職を招く悪循環となる事例もあり、医療の質を低下させ、医療事故・訴訟リスクを高める要因にもなっている。 アウトカム指標：医師数(医療施設の従事者)41,445名(平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査) 増加 看護職員数125,774人(平成28年衛生行政報告例<実数>) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 医療機関が自主的に行う医療従事者の勤務環境改善に資する取組を支援するため、医療機関からの相談に対し、情報提供や助言等必要な援助を実施する。医業経営アドバイザーと医療労務管理アドバイザーを配置し、医療機関の多様なニーズに対し、専門的な支援を行う。 【センターの業務内容】 導入支援・組織力向上支援(訪問支援)、随時相談(電話相談・来所相談)、調査、研修、広報 | | | | | |
| アウトプット指標 | センターの支援により勤務環境改善計画を策定する医療機関数： 12医療機関 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 訪問時における調査、ヒアリングによる課題抽出・現状分析や改善計画策定支援、研修講師派遣等により、勤務環境改善のきっかけを提供し、自院内での改善の取組を促進させる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 12,488 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 46 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,882 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 941 | | (千円) 1,836 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 2,823 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 9,665 | | | (千円) 1,836 |

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 34 | | | | | |
| 事業名 | 東京都地域医療支援センター事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 2,904千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | へき地を含む都内の医師の地域・診療科偏在解消に取り組むコントロールタワーの確立 アウトカム指標： ・へき地町村が必要とする医師充足率 96.4%(H29.4.1) 100%(H35年度末) ・人口10万人あたり医師数 小児科17.4 産科・産婦人科11.6 救急科3.6(各H26) 増やす(H35年度末) | | | | | |
| 事業の内容 | 東京都地域医療対策協議会が策定した方針に基づき、都内医療機関の実態調査、医療機関における医師確保支援、へき地医療等に従事する医師のキャリア形成支援、医師確保対策に関する情報発信など、都の特性を踏まえた医師確保対策を推進する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 医師派遣数：30名 キャリア形成プログラム数：6 地域卒卒業生に対する参加医師数の割合：100% | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 地域医療支援センター運営委員会を開催し、奨学金医師のキャリア形成支援を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 2,904 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 81 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 81 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 40 | | (千円) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 121 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | その他(C) | (千円) 2,783 | | (千円) |

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 35 | | | | | |
| 事業名 | 院内助産所・助産師外来開設研修事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 2,149千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(医療機関へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 産科・産婦人科を標榜する医療機関の減少、周産期医療を担う医師数の減少、ハイリスク出産の増加、晩婚化、高齢出産、不妊治療後の妊娠の増加などの背景に対して状況等に応じて医師や助産師が役割分担を行うことで、医師の負担軽減及びハイリスク妊婦への専念ができる環境をつくることにより安心・安全な出産ができる場の提供へとつながる。 アウトカム指標：院内助産所・助産師外来設置医療機関 院内助産 7 施設 助産師外来 54 施設 (H29年度開設調査) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 院内助産所・助産師外来の開設の促進や、院内助産所等における医療機関管理者及び助産師の質の向上を図るため、院内助産所を開設しようとする医療機関管理者や院内助産所等で助産や妊産婦の相談業務等に従事する医師や助産師等に対する研修を行う | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修の受講に関しては、型の研修は各施設の医師・助産師・助産師が対象であり、型の研修は助産師対象としており、委託施設により異なるが、型は年1回、型は年2～4回実施予定。 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修受講生が各施設で開設の中心となり、開設施設数増加にむけてというだけでなく研修期間において受講施設間における情報交換や地域連携という観点でも相互に作用があると考える。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 2,149 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 170 |
| | | 基金 | | | 民 | (千円) 169 |
| | | 国(A) | (千円) 339 | | | |
| | | 都道府県(B) | (千円) 169 | | | |
| | | 計(A+B) | (千円) 508 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 1,641 | | | (千円) 169 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|---------------------|-----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 36 | | | | | |
| 事業名 | 看護師等養成所運営費補助 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 595,034 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194 頁 第 4 章 課題 ~ 201 頁 第 5 章 2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(保健師助産師看護師法による指定を受けた学校・養成所) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>保健師、助産師、看護師及び准看護師の養成を行うために要する経費を補助することにより教育内容を充実させ、もって都内における看護師等の充足を図り、都民の生命と安全の確保に寄与することを目的としている。</p> <p>アウトカム指標：看護師職員数 119,136 人 (H26 業務従事者届<実数>) 増加(平成35年度末) (人数については需給推計に合わせて設定)</p> | | | | | |
| 事業の内容 | 看護師等の学校又は養成所に対し、必要な経費を補助することにより教育内容の充実と都内の看護師等の充足を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 補助対象課程数：42 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 補助金を施設運営に活用することで、看護教育の充実、資質向上及び安定的な看護師の確保に資する。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | (千円) 595,034 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 3,783 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 103,641 | 民 | (千円) 99,858 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 51,821 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A + B) | (千円) 155,462 | | (千円) |
| | | | その他(C) | (千円) 439,572 | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 37 | | | | | |
| 事業名 | 看護職員定着促進支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 55,689千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(東京都看護協会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 大規模病院に比べて看護職員の離職率が高い200床未満の病院の看護職員定着のための支援策が必要。 アウトカム指標:看護職員数125,774人(H28衛生行政報告例<実数>)増加(平成35年度末)(人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | |
| 事業の内容 | 医療圏ごとに地域に密着した看護師等就業協力員を配置し、200床未満の病院を巡回訪問することで、勤務環境改善や研修体制構築に向けた施設の取組に対する助言・支援等を行う。(アウトリーチ型支援) | | | | | |
| アウトプット指標 | 支援対象病院数:13 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 支援対象病院における離職率の低下を図ることで、看護職員の定着促進を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 55,689 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 161 | 民 | (千円) 160 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 80 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 241 | | (千円) 160 |
| | | | その他(C) | (千円) 55,448 | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 38 | | | | | |
| 事業名 | 新人看護職員研修体制整備事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 255,680千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 新人看護師研修体制整備事業: 病院等 新人看護師研修責任者等研修: 東京都(東京都看護協会へ委託) 新人看護職員多施設合同研修: 東京都(東京都看護協会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 病院などにおいて、新人看護職員等が基本的な臨床実践能力を獲得するための研修を実施することにより、看護師の質の向上及び早期離職防止が求められている。 アウトカム指標: 看護師離職率(2016年病院看護実態調査 新卒(日本看護協会調査による)7.8% 低下 | | | | | |
| 事業の内容 | 「新人看護職員研修ガイドライン」に基づく新人看護職員研修の実施に必要な経費を補助 新人研修プログラムの策定、企画及び運営に対する指導及び助言を行う「研修責任者」及び、実際に研修を運営し、新人看護職員の評価や実施指導者への助言を行う教育担当者を養成 新人看護職員の採用数が少ない病院に対し、他施設合同研修を実施 | | | | | |
| アウトプット指標 | 新人看護職員研修実施施設数 154施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 新人看護職員研修体制整備が進むことで、看護の質の向上及び早期離職防止につながると考えられる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 255,680 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 5,938 |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 24,451 | | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 12,226 | | (千円) 18,513 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 36,677 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 219,003 | | | (千円) 630 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 39 | | | | | |
| 事業名 | 看護外来相談開設研修事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 2,619千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(医療機関へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 医療ニーズの多様化や人口減少、医師等の偏在などを背景として医療機関における医療従事者の確保が困難な中、質の高い医療提供体制を構築するには、勤務環境の改善を通じ、医療従事者が健康で安心して働くことができる環境整備を促進することが重要である。その取組の一つとして、看護師の専門性を高めることで、チーム医療を推進し医師の負担を軽減するとともに、看護師の勤務意欲を向上し定着を促進することで、医療従事者の確保を図ることが必要である。 アウトカム指標：看護外来相談実施施設数132施設(平成29年度調査) 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 看護外来相談等、看護職員の専門性を発揮するために強化すべき看護業務について看護師等の研修の場を確保することにより、チーム医療のより一層の推進と、専門的な看護の実践を通じた看護職員の意欲の向上を図ることで、定着促進につなげる。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 4施設で8回の研修実施(90人の研修受講) | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修を受講した看護職員の離職率が低下し、医療機関における安定的な看護人材の確保につながる。また、講義研修に関しては、受講対象が医師や事務職等の職種も対象であり、他施設のノウハウを学べるだけでなく参加施設間での情報交換や課題共有や連携等の機会にもつながる。さらに、他職者が受講することで看護外来にむけての更なる理解が深まると考える。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 2,619 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) 246 |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 492 | | 民 | (千円) 246 |
| | | 都道府県(B) | (千円) 246 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 246 |
| | | 計(A+B) | (千円) 738 | | | |
| | | その他(C) | (千円) 1,881 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|-----------------|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 40 | | | | | |
| 事業名 | 看護職員実習指導者研修 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 248,868 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194 頁 第4章 課題 ~ 201 頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(東京都看護協会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 保健施設養成所、助産師養成所、看護師養成所若しくは准看護師養成所の実習施設で実習指導者の任にある者又は将来これらの施設の指導者となるような者等が、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導を行うことで、看護職員の資質向上を図る必要がある。 | | | | | |
| | アウトカム指標:看護職員数 125,774 人(H28 衛生行政報告例<実数>) 増加(平成35年度末)(人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | |
| 事業の内容 | 厚生労働省医政局長通知(平成28年4月14日付医政発0414第3号)「保健師助産師看護師実習指導者講習会の実施要綱について」に基づく実習指導者講習会を実施する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 実習指導者講習会の受講者数:225名 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 実習指導者講習会の受講促進を促すことで、実習指導者の任にある者による効果的な実習指導が可能になり、看護師の確保に資することができる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 248,868 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 469 | | 民 | (千円) 469 |
| | | 都道府県 (B) | (千円) 234 | | | |
| | | 計(A+B) | (千円) 703 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 248,165 | | | (千円) 469 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1)事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 41 | | | | | |
| 事業名 | 看護職員地域確保支援事業 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 65,525千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(東京都看護協会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 高齢化の進行、医療環境の変化による患者ニーズの高まりを受け、将来における看護職員の不足が見込まれる中、潜在看護師に対しても多様な職場での再就業を促進し、看護職員の確保を図る必要がある。 アウトカム指標: 看護職員数125,774人(H28衛生行政報告例<実数>)増加(平成35年度末)(人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | |
| 事業の内容 | 地域における看護職員の確保を図るため、離職中の看護職が身近な地域の病院等で研修を行うことにより、看護職の再就業を支援する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 地域就業支援病院数: 26病院 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 復職支援研修を受けた看護職員が病院等施設に再就業することで、看護職員確保を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 65,525 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 557 | | 民 | (千円) 557 |
| | | 都道府県(B) | (千円) 278 | | | |
| | | 計(A+B) | (千円) 835 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | その他(C) | (千円) 64,690 | | | (千円) 557 |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 42 | | | | | |
| 事業名 | 看護師等教員養成研修 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 31,226千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(東京都福祉保健財団へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 医療の高度化、都民のニーズの多様化に伴い、対応できる看護職員を養成するため、看護教員として必要な知識と技術を習得し、看護師等養成所の教員指導能力を強化することで、看護職員の確保を図る必要がある。 アウトカム指標: 都内養成所卒業者(保助看護業に就業した者)の都内就業率 増加 | | | | | |
| 事業の内容 | 看護教育に必要な知識、技術を習得するための研修を実施する。 (看護師学校養成所指定規則の教育内容を踏まえた教育内容・カリキュラムにより実施) | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修受講者数75名(長期45名、短期30名) | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 修了生が都内へ就業することで都の看護教育の向上につながる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 31,226 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,894 | 民 | (千円) 1,894 |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 947 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 2,841 | | (千円) 1,894 |
| | | | その他(C) | (千円) 28,385 | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|-------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|---------------------|------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| 整理番号 | 43 | | | | | | |
| 事業名 | 看護師等養成所施設設備整備費等補助 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 1,006,000 千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 保健師助産師看護師法による指定を受けた学校・養成所 | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 都内における看護師等の充足を図り、都民の生命と安全の確保をしていく必要がある。 アウトカム指標：看護師職員数119,136人(H26業務従事者届<実数>)増加(平成35年度末) (人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | | |
| 事業の内容 | 看護師等養成所の施設整備事業等に要する経費を補助 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 整備費補助実施件数(1施設実施予定) | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 老朽化した看護師等養成所を別敷地に移転し、整備を図ることは、看護師等の充足を図ることにつながると思う。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 1,006,000 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) | |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 57,537 | 民 | (千円) 57,537 | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 28,769 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) | (千円) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 86,306 | | | (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 919,694 | | | (千円) | |
| 備考(注3) | 平成30年度 3,452千円 平成31年度 41,427千円 平成32年度 41,427千円 | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|-------------------|---------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 44 | | | | | |
| 事業名 | 看護師宿舎施設整備費補助 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 1,046,409千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 病院(看護業務の改善に積極的に取り組み、院内研修等独自に離職防止対策を実施している病院) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 看護職員不足を解消するために、離職防止対策の一環として、看護師宿舎の個室整備を行い、看護職員の離職防止を図っていく必要がある。 アウトカム指標: 看護職員数 119,136人(H26業務従事者届<実数>) 増加(平成35年度末) (人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | |
| 事業の内容 | 看護師宿舎の個室整備に伴う新築増改築及び改修に要する工事費又は工事請負費(バルコニー、廊下、階段等教養部門を含む。)の補助 | | | | | |
| アウトプット指標 | 整備補助対象施設件数 2施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 看護師宿舎を整備することにより、看護職員採用と離職防止を図ることは看護職員不足解消につながる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 1,046,409 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 58,476 | | 民 (千円) 58,476 |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 29,238 | | |
| | | | 計(A+B) | (千円) 87,714 | | |
| | | その他(C) | (千円) 958,695 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) |
| 備考(注3) | 平成30年度 67,306千円 平成31年度 121,957千円 平成32年度 121,957千円 | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| 整理番号 | 45 | | | | | | |
| 事業名 | 看護師勤務環境改善施設整備費補助 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 748,210千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 194頁 第4章 課題 ~ 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 病院(看護業務の改善に積極的に取り組み、院内研修等独自に離職防止対策を実施している病院) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 看護職員不足を解消するために、離職防止対策の一環として、看護職員の勤務環境改善に係る施設整備を行い、看護職員の離職防止を図っていく必要がある。 アウトカム指標: 看護職員数 119,136人(H26業務従事者届<実数>)増加(平成35年度末) (人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | | |
| 事業の内容 | 看護職員の勤務環境改善に伴う、ナースステーション・処置室・カンファレンスルームの施設整備に要する経費の補助 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 整備補助対象施設数 2施設 | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | ナースステーション等を改修し、勤務環境改善していくことにより看護職員の確保を図る。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 748,210 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) | |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 19,893 | | 民 | |
| | | | 都道府県 (B) | (千円) 9,947 | | | (千円) 19,893 |
| | | | 計(A+B) | (千円) 29,840 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | その他(C) | (千円) 718,370 | | (千円) | |
| 備考(注3) | 平成30年度 3,150千円 平成31年度 13,345千円 平成32年度 13,345千円 | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------|---------|---------|-----------------------------------|--------|------|--|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | | | | |
| 整理番号 | 46 | | | | | | | | |
| 事業名 | 病院内保育施設運営費補助 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 436,981千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 医療施設 | | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | <p>育児の必要のある医療従事者の確保、離職防止及び再就業の促進を図るため、院内保育施設の運営体制を強化することが必要。 安静の確保に配慮する必要がある、集団保育が困難な児童を保育することが必要</p> <p>アウトカム指標：医師数(医療施設の従事者)40,769名(平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査) 増加(H35年度末)(人数については需給推計に合わせて設定) 看護職員数119,136人(H26業務従事者届<実数>) 増加(平成35年度末)(人数については需給推計に合わせて設定)</p> | | | | | | | | |
| 事業の内容 | 都内の病院及び診療所に勤務する職員のための保育室の運営費掛かる費用のうち、人件費相当分を補助する。また、運営内容に応じて各種加算を行う。 | | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 院内保育施設運営施設数 121施設(補助対象予定施設) | | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 保育室運営にかかる費用のうち、人件費相当分の補助と運営内容に応じた各種加算を行うことにより、医療従事者の確保や離職防止及び再就業の促進を図る。また、安静の確保が必要な集団保育の困難な児童の保育を行う。 | | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 | | (千円) | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 民 | (千円) | | |
| | | (A+B+C) | | 436,981 | | | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | (千円) | | (千円) |
| | | | 都道府県(B) | | | | (千円) | | 82,106 |
| | | | 計(A+B) | | | | (千円) | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| その他(C) | | (千円) | | (千円) | | | | | |

(様式4:東京都)

| | | | | | | |
|--------|--|--|---------|--|--|--|
| | | | 313,822 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------|----------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 47 | | | | | |
| 事業名 | 病院内保育所整備補助 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 15,580千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 196頁 第4章 課題 ライフステージに応じた勤務環境の実現 201頁 第5章2 保健医療を担う人材の確保と資質の向上 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 医療施設 | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 育児の必要のある医療従事者の確保、離職防止及び再就業の促進を図るため、院内保育施設を整備することが必要。 アウトカム指標：医師数(医療施設の従事者)40,769名(平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査) 増加(H35年度末)(人数については需給推計に合わせて設定) 看護職員数119,136人(H26業務従事者届<実数>) 増加(平成35年度末) (人数については需給推計に合わせて設定) | | | | | |
| 事業の内容 | 病院内保育所を新たに開設するために行う新築、増改築及び改修並びに既存の病院内保育所の新築及び増改築に要する工事費及び工事請負費に対し助成する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 院内保育所整備施設数 1施設 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 院内保育所を整備することにより、医療従事者の確保、離職防止及び再就業の促進を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 15,580 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | | 基金 | 国(A) | (千円) 1,951 | 民 | (千円) 1,951 |
| | | | 都道府県(B) | (千円) 976 | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | | 計(A+B) | (千円) 2,927 | | (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 12,653 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

(1) 事業の内容等

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|----------------|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 事業の区分 | 医療従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| 整理番号 | 48 | | | | | |
| 事業名 | 子供の健康相談室 | | | | 【総事業費 (計画期間の総額)】 73,953 千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 東京都全域 | | | | | |
| 地域医療構想において関連する記述 | 187 頁 第4章 課題 救急医療の充実 199 頁 第5章1 都民の役割 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都(民間企業及び公益社団法人東京都医師会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年4月1日~平成31年3月31日 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 救急搬送件数が増加する中、子供の健康に関する不安や悩みの解消と小児初期救急の前段階での安心を確保することで、真に救急医療を必要とする患者に対し、適切な救急医療を提供する必要がある。 アウトカム指標:東京都指定二次救急医療機関(小児科)54施設(H29現在)維持 | | | | | |
| 事業の内容 | 看護師や保健師等が専門的な立場から必要な助言や相談を行う小児患者の保護者等向けの電話相談体制を整備することにより、地域の小児救急医療体制の補強と医療機関の機能分化を推進し、都における患者の症状に応じた適切な医療体制の確保を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 平成30年度予定相談件数 90,000件 (平成29年度(12月まで)67,676件、平成28年度68,630件、平成27年度36,544件) | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 電話相談の実施により、子供の健康に関する不安や悩みの解消と小児初期救急の前段階での安心の確保を図ることで、救急医療機関の負担を軽減でき、真に救急医療を必要とする患者への医療提供が可能になる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | (千円) 73,953 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | (千円) |
| | 基金 | 国(A) | (千円) 3,231 | | 民 | (千円) 3,231 |
| | | 都道府県 (B) | (千円) 1,615 | | | うち受託事業等 (再掲)(注2) |
| | | 計(A+B) | (千円) 4,846 | | | 3,231 (千円) |
| | | その他(C) | (千円) 69,107 | | | |
| 備考(注3) | | | | | | |

(注1)事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

個票49

| | | | | | | | |
|------------------------|---|------------------|-------|-----------------------------------|------------------------|-------|-----------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業 | | | | | | |
| 事業名 | 将来に向けた人材育成・活用プロジェクト事業 (次世代の介護人材確保事業) | | | 【総事業費】 7,475千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（東京都社会福祉協議会へ委託） | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 不足する介護人材の将来に向けたすそ野拡大を妨げる、世間一般の介護職に対する一面的なマイナスイメージを払拭する必要がある アウトカム指標：事業の対象となる世代（中高生等）が将来的に職業の選択肢の一つとして福祉業界を選択すること。 | | | | | | |
| 事業の内容 | 介護現場の職員等が中学・高校を訪問し「福祉の仕事」の内容や魅力について語るセミナーや、希望する生徒・児童を対象とした職場体験を実施する。また、高校生の介護業界への就労を進めるため、高等学校の進路担当教諭を対象としたセミナーを開催し、福祉・介護業界に関する情報などを提供する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校への訪問セミナーを年30回を実施し、累計800名以上の受講を目指す。 ・夏休み期間中に職場体験を実施し、160名程度の参加を目指す。 ・進路指導教諭向けのセミナーを、年2回を実施し、各回50名以上の参加を目指す。 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 次世代を担う中高生等に介護の仕事のやりがいや魅力を伝えることで、福祉・介護に興味・関心を持つ層を拡充し、将来的な介護職場への就職希望者の増を図る。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 民 | | |
| | | | 7,475 | | | | |
| | 基金 | 国 (A) | | | | 4,983 | |
| | | 都道府県 (B) | | | | 2,492 | |
| | | 計 (A + B) | | | | 7,475 | うち受託事業等 (再掲) (注 2) 4,983 |
| | その他 (C) | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票50

| | | | | | |
|------------------------|--|--------------|--------|-----------------------------------|--|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業 | | | | |
| 事業名 | 福祉人材センターの運営 (事業運営費) (総合的広報) | | | 【総事業費】 18,329千円 | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 介護職に対するマイナスイメージを払拭し介護の仕事のやりがいや魅力を広くアピールするとともに、福祉人材確保の取組をより広く周知することにより、介護人材の育成・確保につなげる。 | | | | |
| | アウトカム指標：人材センターの利用者数の増加を図り、福祉・介護業界への就職者数の増加につなげていく。 | | | | |
| 事業の内容 | 求職者及び広く都民を対象に、様々な媒体を駆使して福祉人材センター及びその事業を総合的・一体的に広報する。 | | | | |
| アウトプット指標 | 就職フォーラム等大規模なイベントの来場者の増加を図るとともに、福祉人材センターの認知度を高める。 | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 人材センター及びその事業について広く周知し利用者の増加を図り、介護業界への求職者数及び就職者数の増加につなげていく。 | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 18,329 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 |
| | 基金 | 国 (A) | 11,254 | | |
| | | 都道府県 (B) | 5,627 | | |
| | | 計 (A+B) | 16,881 | | |
| | | その他 (C) | 1,448 | | |
| | | | | 民 | 11,254 うち受託事業等 (再掲) (注 2) 11,254 |
| 備考 (注3) | 「事業に要する費用の額」における「その他 (C)」1,448千円については、平成28年度に造成した同基金を充当する。 | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票51

| | | | | | |
|-----------------------|--|--------------|--------|-------------------------------|--------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業 | | | | |
| 事業名 | 福祉の仕事イメージアップキャンペーン | | | 【総事業費】 35,000千円 | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（企画提案方式により選定された事業者に委託の上実施） | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 不足する介護人材の将来に向けたすそ野拡大を妨げる、世間一般の介護職に対する一面的なマイナスイメージ | | | | |
| | アウトカム指標：介護への未就労者の介護職・介護業界に対するネガティブイメージ「将来に不安がある仕事である」（57.2%）、「自分の仕事ぶりが正しく評価されるとは思わない」（52.9%）、「職場の雰囲気がよいとは思わない」（64.7%）（平成25年度 日本介護福祉士会調べ）を払しょくする。 | | | | |
| 事業の内容 | 福祉の仕事に対するマイナスイメージが社会に広がり、都においては福祉・介護人材確保の困難が継続する中、広く都民に対し、「福祉の仕事の魅力、やりがい」をアピールすることにより、福祉・介護人材の確保を図るとともに、福祉・介護従事者の社会的評価の向上を図る。 | | | | |
| アウトプット指標 | ・イメージアップキャンペーンに関連する普及啓発活動に接した者の、介護職・介護業界に対するイメージの変化・改善率（アンケート等により計測） | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 本事業を通じて介護職・介護業へのイメージの向上を図ることで、世間一般に根強く残るネガティブイメージを後年度にかけて払しょくする。 | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 基金充当額 (国費)における公民の別 (注1) | |
| | | | 35,000 | | |
| | | 国 (A) | 23,333 | | 23,333 |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 11,667 | | うち受託事業等 (再掲) (注2) 23,333 |
| | | 計 (A+B) | 35,000 | | |
| | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票52

| | | | | | | |
|------------------------|--|--------------|--------|-----------------------------------|---|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業 | | | | | |
| 事業名 | 介護講師派遣事業 (セカンドチャレンジFORシニア) | | | 【総事業費】 42,776千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都福祉人材センターに委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保 する必要がある。 | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | |
| 事業の内容 | 企業等が、主に退職前の従業員に対して、介護技術に関する研修等を実施する場合に、 介護福祉士養成施設の教員等を講師として派遣する。就職等を希望するシニアに対して は、就職支援を行う。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修実施の企業数：100か所 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 退職前のシニアに対して介護の魅力を伝え、技術を修得等させることで、介護業務への 参入促進を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 42,776 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 国 (A) | 28,517 | | 民 | 28,517 |
| | | 都道府県 (B) | 14,259 | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | 計 (A+B) | 42,776 | | | 28,517 |
| | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託
額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票53

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|----------|-------|-----------------------------------|---|---|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 老健ショートステイ機能活用促進事業 | | | | 【総事業費】 6,572千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内の老健並びに関係者相互の連携により、老健のサービスの質の確保、向上に関する調査、研究及び指導を行う法人 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 都内の高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯の増加傾向を踏まえ、介護老人保健施設が高齢者の在宅生活の支援により一層貢献できる施設となるために、その機能の活用促進を図る。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：地域の介護支援専門員等の老健ショートに対する理解の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ情報基盤構築 ・地域の介護支援専門員や病院関係者等を対象とする老健理解促進のためのパンフレット作成 ・地域の介護支援専門員や病院関係者等を対象とする老健活用促進のための研修会開催 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット配布予定数 20,000部 ・研修会受講予定者数 200人×3回=600人 | | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 老健ショートステイに関する情報提供の取組を支援することで、高齢者の在宅生活を支える仕組みの充実化を図る。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 6,572 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 4,381 | | | 民 | 4,381 |
| | | | 都道府県 (B) | 2,191 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | | 計 (A+B) | 6,572 | | | | 4,381 |
| | | その他 (C) | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票54

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-------------|---------|--------------------|---|---|---|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした介護の職場体験事業 | | | | | | |
| 事業名 | 介護人材確保対策事業（職場体験） | | | 【総事業費】 19,271千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（福祉人材センター（東京都社会福祉協議会）へ委託） | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保する必要がある。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | | |
| 事業の内容 | 介護業務の体験を希望する者に、介護体験相談員が個々の要望を踏まえた相談及び体験職場の案内を行うことで、介護業務のネガティブなイメージを払拭するとともに、早期離職による介護人材流出を防止することにより、福祉・介護人材の安定的な参入促進を図る。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 事業利用者数1,600名（体験者一人当たり3日まで、延4,800人日） | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 職場体験によって、介護業務のネガティブなイメージを払拭することで、介護人材の安定的な参入促進を図ることで、介護職員の不足の解消を目指す。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 （単位：千円） | 金額 | 総事業費（A+B+C） | | 19,271 | 基金充当額 （国費）にお ける公民の別 （注1） 民 | 公 | |
| | | 基金 | 国（A） | 12,847 | | | 民 |
| | | | 都道府県（B） | 6,424 | | | |
| | | | 計（A+B） | 19,271 | | | |
| | | その他（C） | | | | | |
| | | | | | 12,847 うち受託事業等 （再掲）（注 2） 12,847 | | |
| 備考（注3） | | | | | | | |

（注1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票55

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|--------|-----------------------------------|---|--------|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 参入促進のための研修支援 (小項目) 介護福祉士養成課程にかかる介護実習支援事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（介護福祉士養成課程に係る介護実習支援事業） | | | | 【総事業費】 50,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される介護福祉士養成課程に係る介護実習支援のための事業について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 50,000 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | | | | 33,334 | 33,334 |
| | | | 都道府県 (B) | | | | 16,666 | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | | | | 50,000 | |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票56

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|--------|-----------------------------------|----------------------|--|---|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 参入促進のための研修支援 (小項目) 介護未経験者に対する研修支援事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（介護未経験者に対する研修支援事業） | | | | 【総事業費】 50,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される介護未経験者に対する研修について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 50,000 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 33,334 | | | | 民 |
| | | | 都道府県 (B) | 16,666 | | うち受託事業等 (再掲) (注2) | | |
| | | | 計 (A + B) | 50,000 | | 33,334 | | |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票57

| | | | | | | |
|------------------------|---|-------------|---------|--|---|-------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 介護分野での就労未経験者の就労・定着促進事業 | | | | | |
| 事業名 | 介護人材確保対策事業（初任者研修資格取得支援） | | | 【総事業費】 126,959千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（福祉人材センター（東京都社会福祉協議会）へ委託） | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保する必要がある。 | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | |
| 事業の内容 | 学生に対して、無料の介護職員初任者研修を開講して就職先の選択肢を拡大させるとともに、介護業界への就労を希望する者に対して資格取得を支援することにより、介護分野の人材確保と定着を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 事業利用者数800名 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 就職先の選択肢を拡大させるとともに、介護業界への就労を希望する者に対して資格取得を支援することにより、介護分野の人材確保と定着を図ることで、介護職員の不足の解消を目指す。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費（A+B+C） | 126,959 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) 民 | 公 | |
| | | 国（A） | 23,433 | | 民 | 23,433 |
| | 基金 | 都道府県（B） | 11,717 | | | うち受託事業等 (再掲)（注 2） |
| | | 計（A+B） | 35,150 | | | |
| | | その他（C） | 91,809 | | | |
| 備考（注3） | 「事業に要する費用の額」における「その他（C）」91,809千円については、平成27年度に造成した同基金を充当する。 | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票58

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------------|---------|-----------|--|------------------------|---|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 介護分野での就労未経験者の就労・定着促進事業 | | | | | | |
| 事業名 | 介護人材確保対策事業（介護職員就業促進） | | | | 【総事業費】 | 1,943,496千円 | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（福祉人材センター（東京都社会福祉協議会）へ委託） | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度、平成31年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保する必要がある。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | | |
| 事業の内容 | 介護業務への就労を希望する者のうち、安定した生活を営む環境にない者を対象として、介護施設等での雇用確保と資格取得支援を合わせて行い、介護分野へ人材を誘導するとともに即戦力を確保する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 事業利用者数1,000名 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | トライアル雇用を実施することで、介護分野へ人材を誘導するとともに即戦力を確保することで、介護職員の不足の解消を目指す。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費（A+B+C） | | 1,943,496 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) 民 | 公 民 | |
| | | 基金 | 国（A） | 912,870 | | | 912,870 うち受託事業等 (再掲)（注 2） 912,870 |
| | | | 都道府県（B） | 456,535 | | | |
| | | | 計（A+B） | 1,369,405 | | | |
| | | | その他（C） | 574,191 | | | |

備考（注3） 「事業に要する費用の額」における「その他（C）」574,191千円については、平成27年度、平成28年度及び平成29年度に造成した同基金を充当する。

- (注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。
- (注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。
- (注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票59

| | | | | | | |
|------------------------|--|--------------|--------|------------------------------------|--------------------|------------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) に応じたマッチング機能強化事業 | | | | | |
| 事業名 | 将来に向けた人材育成・活用プロジェクト事業 (人材定着・離職防止に向けた相談支援) | | | | 【総事業費】 28,829千円 | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 介護業界は中小事業者が多く、職場の人間関係の悩み等を相談しづらいことなどから、他産業と比較して離職率が高い状況がある。 | | | | | |
| | アウトカム指標：介護職員の離職率の減 | | | | | |
| 事業の内容 | 福祉・介護従事者の悩みを横断的に受け付ける相談窓口 (電話・面談) を設置するとともに、メンタルヘルス講習会を開催し心身の不調を事前に予防する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 相談支援事業による相談件数について、年間1,500件の利用実績を想定。また、メンタルヘルス講習会を年2回実施。 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 専門の相談員や臨床心理士等の専門職が従事者の不安を的確に把握・解消することで、職員の離職の防止を図るとともに、メンタルヘルス講習会等を通して従事者が辞めにくい職場づくりを推進し、離職率の減を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 28,829 | 基金充当額 (国費) にお ける公民の別 (注1) | 公 | うち受託事業等 (再掲) (注 2) 19,219 |
| | 基金 | 国 (A) | 19,219 | | | |
| | | 都道府県 (B) | 9,610 | | | |
| | | 計 (A+B) | 28,829 | | | |
| | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票60

| | | | | | | | |
|------------------------|---|------------------|-----------|--------|------------------------------------|--------------------------|--|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) に応じたマッチング機能強化事業 | | | | | | |
| 事業名 | 福祉人材センターの運営 (事業運営費) (福祉の仕事就職フォーラム) | | | | 【総事業費】 11,472千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 介護業界は他産業に比較しても人材不足が深刻な状況であり、特に都では他産業との 人材確保競争も厳しく、他県に比して困難な状況である。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：福祉・介護業界への就職者数の増 | | | | | | |
| 事業の内容 | 他産業と同等の活気ある大規模説明会を開催し、福祉系のみならず福祉系以外の学生 等多様な層に対し幅広く介護の仕事の内容と魅力を伝え、福祉・介護業界への就職者の 増加を図る。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 福祉の仕事就職フォーラムを年2回実施し、累計1,000名以上の参加を目指す。 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 大規模な合同就職説明会を開催し、求職者の就職活動を一体的に支援するとともに、 福祉・介護の仕事の魅力を発信することにより、介護業界への就職者を増やす。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 11,472 | 基金充当額 (国費) にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 基金 | 国 (A) | 7,648 | | | |
| | | | 都道府県 (B) | 3,824 | | | |
| | | | 計 (A + B) | 11,472 | | | |
| | | | その他 (C) | | | | |
| | | | | | 7,648 | うち受託事業等 (再掲) (注 2) | |
| | | | | | | 7,648 | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票61

| | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|--------|--------|-----------------------------------|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) に応じたマッチング機能強化事業 | | | | | |
| 事業名 | 福祉人材センターの運営 (事業運営費) (福祉人材確保ネットワーク事業) | | | | 【総事業費】 12,411千円 | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 介護業界は他産業に比較しても人材不足が深刻な状況であり、特に都では他産業との 人材確保競争も厳しく、他県に比して困難な状況である。 | | | | | |
| | アウトカム指標： 福祉・介護業界への就職者の増 | | | | | |
| 事業の内容 | 一定の基準を満たした複数の社会福祉法人等がネットワークを組み、合同就職説明 会、合同研修、人材交流を実施する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 合同就職説明会について、年2回実施し、計200名以上の来場者を目指す。 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 複数の法人が連携し、法人の枠を超えた合同就職説明会・合同研修・人材交流を実施 することで、中小事業所のデメリットを補完し、人材の確保・育成・定着を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 12,411 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 |
| | | 国 (A) | 8,274 | | | |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 4,137 | | | 8,274 |
| | | 計 (A+B) | 12,411 | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | その他 (C) | | | | 8,274 |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票62

| | | | | | | | |
|------------------------|--|------------------|-----------------------------------|-------|------------------------------------|---|-------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) に応じたマッチング機能強化事業 | | | | | | |
| 事業名 | 福祉人材センターの運営 (事業運営費) (地域密着面接会) | | | | 【総事業費】 6,276千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 特にパートタイム勤務に多い、身近な地域での求人・求職のニーズに応える。 | | | | | | |
| | アウトカム指標： 福祉・介護業界への就職者の増 | | | | | | |
| 事業の内容 | 区市町村社協、ハローワーク等と連携し、開催地域の事業者が集う地域密着型の面接会を開催する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 未実施地区の新規開拓 (2地区程度) を含め年間25回程度の面接会を開催する。 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 地域をあらかじめ絞った相談会を実施することで、勤務地のミスマッチが少ない条件での求職活動を支援し、就職者を増やす。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 6,276 | 基金充当額 (国費) にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 基金 | 国 (A) | 4,184 | | | 4,184 |
| | | | 都道府県 (B) | 2,092 | | | |
| | | | 計 (A + B) | 6,276 | | | |
| | | | その他 (C) | | | | |
| | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) 4,184 | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票63

| | | | | | | |
|------------------------|--|--------------|--------|------------------------------------|------------------------------------|--------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) に応じたマッチング機能強化事業 | | | | | |
| 事業名 | 福祉人材センターの運営 (事業運営費) (マッチング強化策) | | | 【総事業費】 43,039千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 福祉・介護分野は他産業に比して人材確保が困難な状況にある。今後さらに都内の介護人材の育成確保を進めるため、事業者側・求職者側双方へアプローチする機会を拡大し、採用活動や職場環境づくり、就職活動に関する能力の向上をそれぞれ支援する必要がある。 | | | | | |
| | アウトカム指標： 福祉・介護業界への就職者の増 | | | | | |
| 事業の内容 | 福祉人材センターの相談員がハローワーク等に出向き、求職者の相談に応じ就職を支援するとともに、事業者の求人開拓を行う。また、福祉・介護事業者の採用担当者向けセミナーを開催し、効果的な職員採用のノウハウなどを提供する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | ・他社協・学校等での出張相談について、12か所以上での実施を目指す。 ・「採用活動支援研修会」について、年5回程度開催し、各回50名以上の参加を目指す。 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | ハローワークや大学等への出張相談により、求職者にとって身近な地域でのマッチングを推進するとともに、求人事業者の採用力を高めることで、福祉・介護業界への就職者を増やす。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 43,039 | 基金充当額 (国費) にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | 基金 | 国 (A) | 28,693 | | | 28,693 |
| | | 都道府県 (B) | 14,346 | | | |
| | | 計 (A+B) | 43,039 | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) 28,693 | |
| | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票64

| | | | | | | | |
|------------------------|---|------------------|-----------|--------|-----------------------------------|---|--------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その1) | | | | | | |
| 事業名 | 将来に向けた人材育成・活用プロジェクト事業 (事業所に対する各種育成支援) | | | | 【総事業費】 28,584千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 人材不足・高い離職率とされる介護人材の確保育成を目指す。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：2025年問題を見据えた、質の高い人材、事業所、施設の確保 | | | | | | |
| 事業の内容 | 事業所に対する各種研修支援 研修支援アドバイザーが研修実施や研修体系構築に向けた事業所からの相談に応じ助言等を行う。また、事業所からの要請に応じて登録した講師を派遣し、研修実施を支援する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 事業所に対する各種研修支援：登録講師派遣416回 相談支援業務 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 相談・助言の結果、研修計画策定や実施に向けて改善された点を確認、人材育成や事業所の支援につなげる。また、講師派遣回数を増やすことで、受講事業所数ならびに受講者数も増、人材確保育成につながる。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 28,584 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 基金 | 国 (A) | 19,056 | | | 19,056 |
| | | | 都道府県 (B) | 9,528 | | | |
| | | | 計 (A + B) | 28,584 | | | |
| | | その他 (C) | | | | | 民 |
| | | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票65

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------|---------|---|---------------------|--------|---|--------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その1) | | | | | | | |
| 事業名 | 介護職員等によるたんの吸引等のための研修事業 | | | | 【総事業費】 141,505千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (公益財団法人東京都福祉保健財団へ委託) | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保する必要がある。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 都内の介護保険事業所等において、適切にたんの吸引等の医療的ケアが提供できるよう、たんの吸引等ができる介護職員等を養成する研修を実施する。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 1・2号研修：480名、3号研修：2,460名 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修を実施することで、都内の介護保険指定事業所等で喀痰吸引等のケアが適切に実施される体制を構築する。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) 民 | 公 | 94,337 | | |
| | | 国 (A) | 141,505 | | | | 民 | うち受託事業等 (再掲) (注2) 94,337 |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 94,337 | | | | | |
| | | 計 (A+B) | 47,168 | | | | | |
| | | その他 (C) | 141,505 | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票66

| | | | | | | |
|---------------------|---|--------------|--------|--------------------------|---|---------------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その3) | | | | | |
| 事業名 | 介護支援専門員研修事業 | | | 【総事業費】 30,243千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都内全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | ①介護支援専門員実務研修・介護支援専門員更新研修・介護支援専門員再研修 公益財団法人東京都福祉保健財団 ②介護支援専門員現任研修 (専門研修Ⅰ) 公益財団法人総合健康推進財団 ③介護支援専門員現任研修 (専門研修Ⅱ) 特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会 ④介護支援専門員現任研修 (実務従事者基礎研修) (H27年度で終了) 特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会 ⑤主任介護支援専門員研修 東京都 (委託先: 特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会) ⑥主任介護支援専門員更新研修 東京都 (委託先: 特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 介護保険制度の基本理念である利用者本位、自立支援、公正中立等の理念を徹底し、専門職としての専門性を図ることにより、利用者の自立支援に資する適切なケアマネジメントの実現に資する。 | | | | | |
| | アウトカム指標: 介護支援専門員登録者数 56,247人 (H29.4.1現在) ⇒ 58,564人 (H31.3.31推計) (2,317人増) | | | | | |
| 事業の内容 | 介護保険制度の適切かつ円滑な運営に資するよう、必要な知識及び技能を有する介護支援専門員を養成するとともに、更なる質の向上を図る研修を実施する。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修受講予定人数 (平成30年度) 介護支援専門員実務研修 2,317人 介護支援専門員専門研修 4,262人 介護支援専門員更新研修 2,415人 介護支援専門員再研修 541人 主任介護支援専門員研修 270人 主任介護支援専門員更新研修 1,146人 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修を実施することで、介護支援専門員の確保及び養成につながる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位: 千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 30,243 | 基金充当額 (国費) における公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 国 (A) | 20,162 | 民 | 民 | |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 10,081 | | | |
| | | 計 (A+B) | 30,243 | | | 20,162 うち受託事業等 (再掲) (注2) 20,162 |
| | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票67

| | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-------------|---------|-------|-----------------------------------|-------|--|-------------------------|---|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修事業 (その3) | | | | | | | | |
| 事業名 | 自立支援・重度化防止等に向けた介護支援専門員研修事業 | | | | 【総事業費】 8,714千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (NPO法人東京都介護支援専門員研究協議会へ委託) | | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 介護保険制度の基本理念である利用者本位、自立支援、公正中立等の理念を徹底し、専門職としての専門性を図ることにより、利用者の自立支援に資する適切なケアマネジメントの実現に資する。 | | | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる在宅医療等の必要量(197,277人/日)への対応 | | | | | | | | |
| 事業の内容 | 医療等の多様な視点からのアセスメント及びサービス提供を展開するための実践的な知識・技術の習得を図ることにより、高齢者の自立支援と要介護状態等の重度化防止及び在宅療養に係る推進役を育成する。 | | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 研修受講予定人数(平成30年度) 主任介護支援専門員 329人 区市町村職員 124人 計453人(3日×3コース) | | | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 研修を実施することで、主任介護支援専門員の専門性向上及び保険者機能強化のための区市町村支援につながる。 | | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費(A+B+C) | | 8,714 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | | | |
| | | 基金 | 国(A) | | | | | 5,809 | 民 |
| | | | 都道府県(B) | | | 2,905 | | うち受託事業等 (再掲)(注 2) | |
| | | | 計(A+B) | | | 8,714 | | | |
| | | その他(C) | | | | | | | |
| 備考(注3) | | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票68

| | | | | | | | | |
|------------------------|--|--------------|----------|-------|-----------------------------------|------------------------|-------|-------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その1) | | | | | | | |
| 事業名 | 暮らしの場における看取り支援事業 | | | | 【総事業費】 7,948千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (研修部分について外部に委託予定) | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 住み慣れた暮らしの場における看取りを支援する。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：医療・介護従事者等の看取り期のケアへの実践力の底上げ・各地域の研修リーダーの増加 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 医療・介護従事者等を対象に、暮らしの場における看取りについて、具体的な事例をもとにチームで検討するなど、実践的な内容の研修を実施。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 都内24区市町村各3名程度に研修を実施。(平成29年度から平成31年度までの3年間で62区市町村に実施。) | | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 医療・介護従事者等を対象に、暮らしの場における看取りについて、具体的な事例をもとにチームで検討するなど、実践的な内容の研修を実施し、看取り期のケアへの実践力の底上げ・各地域の研修リーダーの増加を図る。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 7,948 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 民 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | | | | 5,299 | 5,299 |
| | | | 都道府県 (B) | | | | 2,649 | うち受託事業等 (再掲) (注2) 5,299 |
| | | | 計 (A+B) | | | | 7,948 | |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票69

| | | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|----------|--|-----------------------------------|---|---|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その2) | | | | | | |
| 事業名 | 東京都介護職員キャリアパス導入促進事業 | | | 【総事業費】 17,697千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (公益財団法人東京都福祉保健財団へ委託) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保する必要がある。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | | |
| 事業の内容 | キャリアパスの導入の一環として、介護キャリア段位制度を活用し、レベル認定者に対する認定手当相当額を支給した事業所に対し、補助する。あわせて、キャリアパスの導入を効果的に行うため、管理者等に対するセミナーを開催する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | アセッサー講習受講者支援880人 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 介護事業所にキャリアパスの導入を促し、職員がキャリアアップを図れる環境を実現し、専門的人材の育成を図るとともに、人材の定着促進につなげる。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 17,697 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 基金 | 国 (A) | 11,798 | | | 民 |
| | | | 都道府県 (B) | 5,899 | | | |
| | | | 計 (A+B) | 17,697 | | | |
| | | | その他 (C) | | | | |
| | | | | 11,798 うち受託事業等 (再掲) (注2) 11,798 | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

- (注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。
(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。
(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票70

| | | | | | | | |
|------------------------|--|------------------|-----------|--------|-----------------------------------|------------------------|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その1) | | | | | | |
| 事業名 | ユニットケア研修 | | | | 【総事業費】 10,856千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (都が日本ユニットケア推進センター及び全国個室ユニット型施設推進協議会へ委託) | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 現状、ユニット設置数に対して、研修受講者が多い状況であるが、施設職員の転退職等により、ユニットケア研修を受講した職員を配置することが困難な場合があり、1施設において複数相当の養成が必要である。また、全国的にユニット化率が低く、ユニットケアのノウハウの蓄積、ケアへの浸透が困難な状況にあり、一層の技術支援が必要である。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度までに、ユニット化率37%の達成 | | | | | | |
| 事業の内容 | ユニットケア施設の管理者及び職員に対し、ユニットケアに関する研修等を実施する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 管理者研修：21名 リーダー研修：101名 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 研修を実施することで、都内のユニット化を推進するとともに、各施設において多くのユニットリーダーを養成することで、ユニットケアの質の向上を図る。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 10,856 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 民 | |
| | | 基金 | 国 (A) | 7,237 | | | 7,237 |
| | | | 都道府県 (B) | 3,619 | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | | 計 (A + B) | 10,856 | | | |
| | | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票71

| | | | | | | | |
|------------------------|--|------------------|-----------|-----|-----------------------------------|---|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その1) | | | | | | |
| 事業名 | 感染症対策指導者養成研修事業 | | | | 【総事業費】 193千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 都内における高齢者施設での感染症の発生及び拡大を防止するため、施設管理者及び感染症対策担当等を対象に感染症対策に関する研修を実施する。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：感染症の発生防止とともに、発生時に適切な対応ができる施設内体制を整備している高齢者施設の増加 | | | | | | |
| 事業の内容 | 特別養護老人ホーム等における施設管理者及び感染症対策担当者を対象に、感染症対策に関する研修を実施。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 感染症対策指導者養成研修において、500施設以上の参加。 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 特別養護老人ホーム等において感染症の発生を防止するとともに、発生時に適切な対応ができるような施設内体制を整備する。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 193 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 基金 | 国 (A) | 128 | | | |
| | | | 都道府県 (B) | 65 | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | | 計 (A + B) | 193 | | | |
| | | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票72

| | | | | | | | | |
|-----------------------|---|------------------|--------|--------------------------------|---|--------|--|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 (その1) | | | | | | | |
| 事業名 | 外国人技能実習制度に基づく外国人介護実習生の受入支援事業 | | | 【総事業費】 25,125千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 開発途上地域等への技能等の移転を図り、その経済発展を担う「人づくり」に協力する趣旨から、都内の特養・老健等で外国人技能実習生を受入れる場合に、技能実習に必要な日本語教育及び技術の習得が円滑に実施されるよう高齢者福祉施設を支援する。 アウトカム指標：実習開始から6か月を経過した場合に、介護報酬上の配置基準の介護職員とみなす取り扱いとされていることから、技能実習生が利用者や他の介護職員等と適切にコミュニケーションを図ることができる能力を確保し、介護サービスの質を担保する。 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 外国人技能実習制度に基づく介護職種の技能実習生が、在留期間（上限は5年）内に、高齢者福祉施設で技能の習得ができるよう、民間福祉施設に対し介護技能移転に伴う教育経費及び日本語学習に要する経費の一部の補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、日本語能力及び介護技術の習得を目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 技能実習に必要な日本語教育及び介護技術の習得にかかる経費を補助することで、日本語能力及び介護技術を身に付けるとともに、より一層、技能実習生が利用者や他の介護職員等と適切にコミュニケーションを図ることができる能力を確保し、介護サービスの質を担保することが可能になる。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 基金充当額 (国費) における公民の別 (注1) | 公 | | | |
| | | | 25,125 | | | | | |
| | 基金 | 国 (A) | | | | 16,750 | | 16,750 |
| | | 都道府県 (B) | | | | 8,375 | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | 計 (A + B) | | | | 25,125 | | 16,750 |
| その他 (C) | | | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票73

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|--------|------------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業） | | | | 【総事業費】 50,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される多様な人材層に対する介護人材キャリアアップの研修について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 50,000 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 33,334 | | | 民 | 33,334 |
| | | | 都道府県 (B) | 16,666 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | 50,000 | | | | 33,334 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票74

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-------------|---------|--------|--|---|---|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 研修代替要員の確保支援 (小項目) 各種研修に係る代替要員の確保対策事業 | | | | | | |
| 事業名 | 代替職員の確保による現任介護職員等の研修支援事業 | | | | 【総事業費】 92,781千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（人材派遣会社へ委託） | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度、平成31年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 今後の急速な高齢化と労働力人口の減に備え、将来を見据えた介護人材を安定して確保する必要がある。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：平成37年度に見込まれる約3万5千人の介護職員の不足の解消 | | | | | | |
| 事業の内容 | 都内の介護事業所等が、介護職員に資質向上を図るための研修を受講させる場合、都受託人材派遣会社から代替職員を当該事業所へ派遣する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 約100名（延35,795時間） | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 介護職員のキャリアアップを促進し、介護人材の定着を図ることで、介護職員の不足の解消を目指す。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費（A+B+C） | | 92,781 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 基金 | 国（A） | 22,247 | | | 民 |
| | | | 都道府県（B） | 11,123 | | | |
| | | | 計（A+B） | 33,370 | | | |
| | | | その他（C） | 59,411 | | | |
| | | | | | 22,247 うち受託事業等 (再掲) (注 2) 22,247 | | |
| 備考（注3） | 「事業に要する費用の額」における「その他（C）」59,411千円については、平成28年度に造成した同基金を充当する。 | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票75

| | | | | | |
|------------------------|--|--------------|--------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 潜在有資格者の再就業促進 (小項目) 潜在介護福祉士の再就業促進事業 | | | | |
| 事業名 | 福祉人材センターの運営 (事業運営費) (民間就職支援アドバイザー) | | | 【総事業費】 24,662千円 | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 (東京都社会福祉協議会へ委託) | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 介護業界は他産業に比較しても人材不足が深刻な状況であり、特に都では他産業との人材確保競争も厳しく、他県に比して困難な状況である。こうした中、資格を有しながら介護等の業務に従事していない潜在的介護福祉士は平成24年度に全国に約50万人と推計され、潜在的有資格者の再就職支援への取組が求められている。 | | | | |
| | アウトカム指標： 福祉・介護業界への就職者の増 | | | | |
| 事業の内容 | 民間就職支援アドバイザーが、個々の求職者に対してキャリアカウンセリングを行うとともに、履歴書の書き方など求職活動に必要なノウハウを伝える就職支援セミナーを開催する。 | | | | |
| アウトプット指標 | 就職者数について、年間800名を目指す。 | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 民間のスキルを生かしたキャリアカウンセリングや就職支援セミナー等きめ細やかな支援を行うことで、潜在的有資格者の介護職場への円滑な就労を支援する。 | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 24,662 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 |
| | | 国 (A) | 16,441 | | |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 8,221 | | |
| | | 計 (A+B) | 24,662 | | 16,441 うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | その他 (C) | | | 16,441 |
| 備考 (注3) | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票76

| | | | | | | | | |
|-----------------------|---|------------------|-----------|--------|-----------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 離職した介護人材ニーズ把握のための実態調査事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（離職した介護人材ニーズ把握のための実態調査事業） | | | | 【総事業費】 10,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される離職した介護人材ニーズ把握のための実態調査について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 10,000 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 6,667 | | | 民 | 6,667 |
| | | | 都道府県 (B) | 3,333 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | 10,000 | | | | 6,667 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票77

| | | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|--------|-----------------------------------|--------------------|--------------------------|--------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | | |
| 事業名 | 認知症疾患医療センター運営事業 | | | | 【総事業費】 48,056千円 | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（以下の都内12か所の認知症疾患医療センターに委託して実施） ①順天堂医院、②荏原病院、③松沢病院、④浴風会病院、⑤東京都健康長寿医療センター、⑥大内病院、⑦順天堂東京江東高齢者医療センター、⑧青梅成木台病院、⑨平川病院、⑩立川病院、⑪杏林大学医学部附属病院、⑫山田病院 | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 認知症の人が住み慣れた地域の住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人とその家族の地域生活を支える医療体制が必要。 アウトカム指標：かかりつけ医、病院勤務の医療従事者、地域包括支援センターの職員等、地域の医療従事者等の認知症対応力向上が図られている。 | | | | | | |
| 事業の内容 | 12か所の都内地域拠点型認知症疾患医療センターを、二次保健医療圏における人材育成の拠点とし、各種研修を実施することにより、地域の認知症対応力向上を図る。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 以下の研修を実施する。 ・かかりつけ医認知症研修 60名×12センター=720名 ・看護師認知症対応力向上研修Ⅰ 120名×12センター=1,440名 | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | かかりつけ医や看護師等に認知症対応力向上研修を実施することで、認知症の疑いがある人への早期対応、認知症の人の行動・心理症状や身体合併症等への適切な対応等が可能となり、地域における医療提供体制が整備される。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | 2,670 | |
| | | 国 (A) | 48,056 | | 民 | 29,367 | |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 32,037 | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) | 29,367 |
| | | 計 (A+B) | 16,019 | | | | |
| | | その他 (C) | 48,056 | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票78

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|------------------------------------|----------|--------|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | | |
| 事業名 | 認知症支援推進センター運営事業 | | | 【総事業費】 | 64,785千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（東京都健康長寿医療センターに委託して実施） | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。 | | | | | | |
| | アウトカム指標：認知症ケアに携わり、認知症高齢者等を地域で支える都内全体の医療・介護専門職等の認知症対応力の向上 | | | | | | |
| 事業の内容 | 各認知症疾患医療センターにおける人材育成の取組を支援するとともに、各種研修を実施することにより、認知症ケアに携わる医療従事者等の都内全体のレベルアップを図る。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | 以下の研修を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポート医フォローアップ研修 各250名程度（年4回） ・認知症疾患医療センター職員研修 120名程度（年1回） ・認知症地域対応力向上研修 各140名程度（年2回） ・認知症多職種協働研修講師養成研修 130名程度（年1回） ・島しょ地域の認知症対応力向上研修 3町村 | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 研修の実施により、都内全体の認知症ケアに携わる医療専門職等の認知症対応力が向上し、認知症高齢者等を地域で支えるための体制が構築される。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | | | 64,785 | |
| | | | 都道府県 (B) | | | 43,190 | |
| | | | 計 (A + B) | | | 21,595 | 43,190 |
| | | | その他 (C) | | | 64,785 | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | 0 | | 43,190 | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票79

| | | | | | | |
|------------------------|--|--------------------|--------|-----------------------------------|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | |
| 事業名 | 認知症介護研修事業 | 【総事業費】 38,300千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（以下の団体に委託して実施） ・社会福祉法人東京都社会福祉協議会 (認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症対応型サービス事業開設者研修、認知症対応型サービス事業管理者研修、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修、認知症介護基礎研修) ・社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター (認知症介護指導者養成研修、認知症介護指導者フォローアップ研修) | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 認知症の人への介護に当たっては、認知症のことをよく理解し、本人主体の介護を行うことで、できる限り認知症の進行を緩徐化させ、行動・心理症状（BPSD）を予防できるような形でサービスを提供することが求められている。 | | | | | |
| | アウトカム指標： 上記のような良質な介護を担うことができる人材を質・量ともに確保できている。 | | | | | |
| 事業の内容 | 高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し、認知症の人の介護に関する研修を実施することにより、認知症介護の技術の向上を図り、認知症介護の専門職員を養成し、もって認知症の人に対する介護サービスの充実を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 以下の研修を実施する。 ①認知症介護実践者研修 1,600名（80名×20回） ②認知症介護実践リーダー研修 300名（50名×6回） ③認知症対応型サービス事業開設者研修 70名（35名×2回） ④認知症対応型サービス事業管理者研修 420名（70名×6回） ⑤小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 80名（20名×4回） ⑥認知症介護基礎研修 1,600名（80名×20回） ⑦認知症介護指導者養成研修 30名 ⑧認知症介護指導者フォローアップ研修 3名 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し、認知症の人の介護に関する研修を実施することにより、認知症介護の技術の向上を図り、認知症介護の専門職員を養成し、もって認知症の人に対する介護サービスの充実を図る。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費（A+B+C） | 38,300 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | |
| | | 国（A） | 25,533 | | 民 | 25,533 |
| | | 都道府県（B） | 12,767 | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | 計（A+B） | 38,300 | | | 25,533 |
| | | その他（C） | | | | |
| 備考（注3） | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票80

| | | | | | | |
|-----------------------|---|------------------|--------|------------------------------------|--------|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | |
| 事業名 | 認知症初期集中支援チーム員等研修事業 | | | 【総事業費】 22,000千円 | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（以下の団体に委託して実施） ・国立研究開発法人国立長寿医療研究センター（認知症初期集中支援チーム員研修） ・社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター（認知症地域支援推進員研修） | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。 | | | | | |
| | アウトカム指標： すべての区市町村に認知症地域支援推進員及び認知症初期集中支援チームが配置され、それぞれの役割を担うための質が確保されている。 | | | | | |
| 事業の内容 | すべての区市町村に配置されている認知症地域支援推進員及び認知症初期集中支援チーム員がその役割を担うための知識・技能の受講促進を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 以下の研修を実施する。 ・認知症初期集中支援チーム員研修 360名 ・認知症地域支援推進員研修 200名 | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 認知症地域支援推進員及び認知症初期集中支援チーム員がその役割を担うための知識・技能の習得をすることにより、認知症専門医による指導の下に早期診断、早期対応の体制が地域包括支援センター等に整備される。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | |
| | | | 22,000 | | | |
| | 基金 | 国 (A) | | | 14,667 | |
| | | 都道府県 (B) | | | 7,333 | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | 計 (A + B) | | | 22,000 | |
| | その他 (C) | | | 14,667 | | |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票81

| | | | | | | | | |
|-----------------------|---|--------------|----------|--------|-----------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 歯科医師・薬剤師・看護職員認知症対応力向上研修事業 | | | | 【総事業費】 19,828千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医師認知症対応力向上研修： 東京都（公益社団法人東京都歯科医師会に委託して実施） ・ 薬剤師認知症対応力向上研修： 東京都（公益社団法人東京都薬剤師会との共催で実施） ・ 看護職員認知症対応力向上研修： 東京都（一部研修を東京都健康長寿医療センターに委託して実施） | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標： 地域の医療機関、認知症疾患医療センター、地域包括支援センター等と日常的な連携機能を有する歯科医師・薬剤師・看護職員の認知症対応力の向上 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 関係団体等と連携して、歯科医師向け、薬剤師向け、看護職員向けの研修を実施する。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 以下の研修を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医師認知症対応力向上研修：600名（200名×年3回） ・ 薬剤師認知症対応力向上研修：1,000名（500名程度×年2回） ・ 看護師認知症対応力向上研修 <ul style="list-style-type: none"> 看護師認知症対応力向上研修Ⅱ：700名（180名程度×年4回） 看護師認知症対応力向上研修Ⅲ：150名（年1回） | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 歯科医師、薬剤師、看護職員の認知症の早期発見や医療における認知症への対応力の向上により、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供を図る。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 19,828 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 13,219 | | | 民 | 13,219 |
| | | | 都道府県 (B) | 6,609 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A+B) | 19,828 | | | | 13,219 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票82

| | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|-------|-------|-----------------------------------|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材育成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | |
| 事業名 | 認知症とともに暮らす地域あんしん事業 | | | | 【総事業費】 1,095千円 | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（東京都健康長寿医療センターに委託して実施） | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 認知症になっても地域で安心して暮らすことができるよう、認知症(軽度認知障害を含む。以下同じ。)の初期から、地域において適切な支援が受けられる体制を構築する必要がある。 アウトカム指標：認知症に係る体制づくり等を担う指導者（認知症地域支援推進員等。以下同じ。）による、認知症の初期段階から支援ができる地域づくりの推進。 | | | | | |
| 事業の内容 | 認知症に係る体制づくり等を担う指導者が、認知症とともに暮らす地域づくりを行うにあたって必要な知識及び技術の習得を図る。 | | | | | |
| アウトプット指標 | 認知症地域づくり支援研修を年1回（定員150名程度）を開催する。 | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 認知症支援に係る体制づくり等を担う指導者に研修を実施することで、認知症の初期から地域において適切な支援が受けられる体制の構築が図られる。 | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | | 1,095 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 |
| | | 国 (A) | 730 | | | |
| | 基金 | 都道府県 (B) | 365 | | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | 計 (A+B) | 1,095 | | | 1,095 |
| | | その他 (C) | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票83

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|--------|------------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業） | | | | 【総事業費】 50,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 50,000 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 33,334 | | | 民 | 33,334 |
| | | | 都道府県 (B) | 16,666 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | 50,000 | | | | 33,334 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票84

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|--------------|--------|-----------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | |
| | (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業 | | | | | | |
| 事業名 | 生活支援体制整備強化事業 | | | 【総事業費】 17,043千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（社会福祉法人東京都社会福祉協議会に委託して実施） | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 生活支援・介護予防サービスの充実・強化及び高齢者の社会参加の推進によって、高齢者が地域において安心して生活できる体制の構築を図る。 | | | | | | |
| | アウトカム指標： 全62区市町村で生活支援体制整備事業が地域の実情に応じて実施され、必要な生活支援サービスが充足 | | | | | | |
| 事業の内容 | 各区市町村の生活支援コーディネーター等に対し、生活支援コーディネーター及び協議体に求められる役割・機能や、サービス開発の手法、地域の多様な主体との連携の必要性等について理解し、業務を行う上で必要な知識及び技能の習得・向上を図る研修（初任者研修及び現任者研修）を実施する。 | | | | | | |
| アウトプット指標 | ①初任者研修受講人数 3か年で600名程度 ②現任者研修 3か年で180名程度 | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村が生活支援コーディネーターを適切に配置し、効果的な取組が行えるよう支援することで、地域に必要な生活支援サービスを創出する。 | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A+B+C) | 17,043 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | 基金 | 国 (A) | 11,362 | | | 民 | 11,362 |
| | | 都道府県 (B) | 5,681 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | 計 (A+B) | 17,043 | | | | 11,362 |
| | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票85

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|--------|------------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 人材育成力の強化 (小項目) 新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業） | | | | 【総事業費】 50,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援のための事業について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 50,000 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 33,333 | | | 民 | 33,333 |
| | | | 都道府県 (B) | 16,667 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | 50,000 | | | | 33,333 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票86

| | | | | | | | | |
|------------------------|--|------------------|-----------|-----------------------------------|--------------------|---------|---|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 (事業者指定・事業者情報提供事業) | | | | 【総事業費】 17,043千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域（八王子市を除く） | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（一部東京都福祉保健財団に委託して実施） | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 事業者指定等の事務を効率的に実施し、事業者支援の取組みの拡充や、介護サービスの質の向上を図るとともに、介護事業者の労働関係法令遵守の徹底を図る。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：労働関係法令遵守の徹底を図ることによる適切な職場環境の創出 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 1 介護事業者指定事務等 (1) 新規指定事業所の指定及び公示 (2) 廃止届出事業所の公示 (3) 指定更新事業所の審査、更新決定 (4) 事業所の事業運営に対する適切な援助 2 介護事業者情報提供 事業者等管理台帳システムの運用・改修 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 介護保険制度において、サービス提供の主体となるサービス提供事業者を指定するとともに、指定事業者等に関する情報を都民や区市町村等に幅広く提供する。 介護事業者の労働関係法令遵守の徹底を図るため、新規事業者研修（年12回）及び指定更新対象事業者研修（年2回）において、東京労働局職員による講義を設ける。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 指定関係手続の中で、労働関係法令の順守を周知徹底することにより、介護事業所の職場環境の改善を援助する。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | 8,445 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | | | 92,838 | 民 | 84,393 |
| | | | 都道府県 (B) | | | 46,419 | | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | | 計 (A + B) | | | 139,257 | | 84,393 |
| | | その他 (C) | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票87

| | | | | | | | | |
|-----------------------|---|------------------|-----------|--------|------------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金（管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業） | | | | 【総事業費】 50,000千円 | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 都内区市町村 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域医療介護総合確保基金を活用し、区市町村が取り組む介護人材対策への支援を行い、地域社会を支える介護人材の確保・定着・育成をすすめる。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標：都内区市町村が行う地域の特色を踏まえた介護人材確保の取組の促進 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 地域医療介護総合確保基金をもとに「東京都区市町村介護人材緊急対策事業費補助金」を設立し、区市町村で実施される管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進のための事業について補助を行う。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 本事業の活用により、都内全域の区市町村で各地域の特色に応じた介護人材確保の取組がより一層促進されることを目指す。 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 各区市町村のそれぞれの特色を生かした先行的な取組事例を横展開し、区市町村における施策検討に資するような情報提供を図っていく。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 50,000 | 基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 33,333 | | | 民 | 33,333 |
| | | | 都道府県 (B) | 16,667 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | 50,000 | | | | 33,333 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票88

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|-----------|-------------------|-----------------------------------|---|---|----------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業・介護ロボット導入支援事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 次世代介護機器の活用支援事業 | | | 【総事業費】 7,500千円 | | | | |
| 事業の対象となる医療介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都 | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護ニーズ | 地域包括ケアシステムの構築に向け、介護職員の定着支援及び高齢者の生活の質の向上を図る。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標： 次世代介護機器導入施設における介護従事者の負担軽減及び介護の質の向上を図る。 | | | | | | | |
| 事業の内容 | <p>1 導入経費補助の実施 介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化など、介護環境の改善に資する次世代介護機器の導入に必要な経費の一部を補助する。</p> <p>2 次世代介護機器の普及啓発 (1) セミナー・公開見学会の開催 優秀事例の紹介、専門家の講演や体験使用のできるセミナーを開催し、理解を深める機会を提供する。また、モデル施設となった2施設の公開見学会を開催し、現場の好事例を実際に見る機会を提供する。 (2) 機器展示スペースの設置 東京都福祉保健財団の福祉機器設置スペースを活用し、次世代介護機器の展示等を行い、次世代介護機器の情報収集や体験の場を提供する。</p> | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 次世代介護機器導入経費の補助 15か所 | | | | | | | |
| アウトカムとアウトプットの関連 | 次世代介護機器の導入支援及び普及啓発を実施することで、次世代介護機器の適切な使用及び効果的な導入を促し、職場環境の改善が期待できる。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 7,500 | 基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | 5,000 | | | 民 | 5,000 |
| | | | 都道府県 (B) | 2,500 | | | | うち受託事業等 (再掲) (注2) |
| | | | 計 (A + B) | 7,500 | | | | 5,000 |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

個票89

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|------------------|-----------|--------|-----------------------------------|---|--------|--------------------------|
| 事業の区分 | 5. 介護従事者の確保に関する事業 | | | | | | | |
| | (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 子育て支援 (小項目) 介護従事者の子育て支援のための施設内保育施設運営支援事業 | | | | | | | |
| 事業名 | 介護施設内保育施設運営支援事業 | | | | 【総事業費】 76,650千円 | | | |
| 事業の対象となる医療 介護総合確保区域 | 都全域 | | | | | | | |
| 事業の実施主体 | 東京都（都が介護施設等に直接補助） | | | | | | | |
| 事業の期間 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 背景にある医療・介護 ニーズ | 福祉・介護関係は他産業に比べて人材確保が困難な状況であり、特に都では他産業との人材確保競争も厳しく、他県に比して困難な状況である。 | | | | | | | |
| | アウトカム指標： 福祉・介護業界への就職者の増 | | | | | | | |
| 事業の内容 | 介護施設等が雇用する職員のために設置する保育施設の運営費を助成する。 | | | | | | | |
| アウトプット指標 | 16箇所の施設・事業所に対し、保育施設の運営費を助成する。 (内訳) A型6、B型10箇所 | | | | | | | |
| アウトカムとアウト プットの関連 | 保育施設の運営費を助成することにより、介護職員等の処遇を改善し、働きやすい介護の職場づくりを推進する。 | | | | | | | |
| 事業に要する費用の額 (単位：千円) | 金額 | 総事業費 (A + B + C) | | 76,650 | 基金充当額 (国費)にお ける公民の別 (注1) | 公 | | |
| | | 基金 | 国 (A) | | | | 51,100 | 51,100 |
| | | | 都道府県 (B) | | | | 25,550 | うち受託事業等 (再掲) (注 2) |
| | | | 計 (A + B) | | | | 76,650 | |
| | | | その他 (C) | | | | | |
| 民 | | | | | | | | |
| 備考 (注3) | | | | | | | | |

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。